



景
景観



健
教育・福祉

【2014年度 初版】

とっとり登録伝統農地

～農地の価値を後世につなぐ～



生
生態・環境

主宰：鳥取県農業委員会系統組織
(鳥取県農業会議・市町村農業委員会)
協賛：鳥取県農林水産部、JAグループ鳥取
(公財)鳥取県農業農村担い手育成機構
鳥取県土地改良事業団体連合会、全国農業会議所



産
生産振興



史
歴史・文化

とっとり伝統農地登録宣言

県民が誇りにしている地域資源に伝統農地がある。

伝統農地とは、先人が長い歴史を通じて切り開き、今日まで脈々と耕し続けてきた価値を見直し、地域の誇り・財産として次代に継承していく田畑をいう。

伝統農地の登録は単に農地を守るだけでなく産業に活かし、水源の涵養、景観、生態系維持や教育・文化など地域の活性化にも貢献し、農業や地域のあらゆる場面に対する人々の誇りを醸成することにも役立てるものである。

農地は幾百年もの昔、一畝づつ大地を起し、土をあてがいながら営々と造成し、水を引き、草を刈り込んで耕してきた。

耕せば耕すほど、自然を敬い、豊作を祈願し、そのことが、すべてそのまま自分の一部となる。

そんな「心の農地」も、今は食生活の多様化や貿易自由化等によって劇的に変わり、土を耕すことも、祈ることも続けられなくなった。

言うまでもなく、歴史はめぐり、時は流れたとはいえ、農地はもろもろの日本の農耕文化の原点と仲間をつくる力を内包している。

先人の英知と偉業を偲びこれを称えるとともに、農地を後世に伝え残して活かすことは、今を生きる者に課せられた責務である。

本登録の目的は、それぞれの農地の価値を再認識し、「気付き・考え・行動」に結びつけることが大切である。

ここに鳥取県農業委員会系統組織が進める「農地を守り活かす全県運動」の一環として、「とっとり伝統農地」を毎年度、追加登録することとし、「農地を守り活かす全県運動」につなげる。

平成26年7月

鳥取県農業会議会長

(鳥取県農業委員会系統組織代表)

川上 一郎

目 次

産 I 生産振興

1 砂丘土

- ①砂丘らつきょう団地(鳥取市福部町) らつきょう 1
- ②北条砂丘(北栄町) らつきょう、ながいも、ぶどう
白ねぎ 2
- ③弓浜半島砂丘畑(米子市、境港市) 白ねぎ、にんじん
さつまも、葉たばこ 3
- ④中海干拓地(米子市、境港市) だいこん、白ねぎ、さといも
さつまいも、葉たばこ 4

2 黒ボク土

- ①広留野高原(八頭町、若桜町) 夏だいこん 5
- ②久米ヶ原黒ボク台地(倉吉市) すいか、花木 6
- ③関金黒ボク台地(倉吉市関金町) 円筒分水灌漑^{かんがい}—水稲、梨
白ねぎ、白小豆 7
- ④大栄黒ボク台地(北栄町) すいか、ブロッコリー
ハウス野菜、花き、芝 8
- ⑤八橋黒ボク台地(琴浦町) 芝、梨 9
- ⑥大山黒ボク台地(大山町) ブロッコリー、芝、梨、お茶 10
- ⑦奥大山黒ボク台地(江府町) ブルーベリー、だいこん 11
- ⑧大山高台地帯(大山町香取、枅水原地区) 酪農 12
- ⑨南部五色ヶ丘果樹団地(南部町) 柿、梨 13

3 褐色土

- ①因幡柿畑地帯(八頭町) 花御所、西条柿 14
- ②東郷池周辺丘陵地帯(湯梨浜町) 梨、梅 15

4 灰色土

- ①日南山間地(日南町) 水稲 16
- ③気高砂壤土地域(鳥取市気高町) 転作—しょうが 18
- ④大黒新田(三朝)地域(三朝町) 転作—三朝神倉大豆 19
- ⑤大井手用水流域(鳥取市) 井手灌漑^{かんがい}—水稲 20
- ⑥安藤井手流域(八頭町) 井手灌漑^{かんがい}—水稲 21

景 II 景観

- ①日吉津チューリップ(日吉津村) 22
- ②横尾棚田団地(岩美町) 棚田—水稲 23
- ③つく米棚田団地(若桜町) 棚田—水稲 24
- ④上地棚田団地(鳥取市国府町) 棚田—水稲 25
- ⑤赤松の池、伝説と景観(大山町) 池—水稲、大豆 26

生 III 生態・環境

- ①日光冬水たんぼ(鳥取市気高町) 水稲 27
- ②横尾棚田団地(岩美町) 23
- ③つく米棚田団地(若桜町) 24
- ④上地棚田団地(鳥取市国府町) 25
- ⑤赤松の池、伝説と景観(大山町) 26

健 IV 教育・福祉

- ①丸山地区ふれあい交流田(伯耆町) 米フェスター—水稲 28
- ②市民(健康)農園(県全域) 自家用野菜、花き 29
- ③学童農園(県全域) 水稲、野菜 30
- ④福祉農園(県全域) 野菜類、花き類 31

史 V 歴史・文化

- ①米川用水流域農業(米子市、境港市) 井手灌漑^{かんがい}—水稲
白ねぎ 32
- ②金持神社とたたら^{たたら}の里(日野町) 水稲 33
- ③都市近郊農業地帯(鳥取市、倉吉市、米子市) 野菜、花き 34
- ④揚水水車が回る田んぼ(県全域) 水稲 35
- ⑤砂丘らつきょう団地(鳥取市福部町) 1
- ⑥北条砂丘(北栄町) 2
- ⑦弓浜半島砂丘畑(米子市、境港市) 3
- ⑧因幡柿畑地帯(八頭町) 14
- ⑨東郷池周辺丘陵地帯(湯梨浜町) 15
- ⑩広留野高原(八頭町、若桜町) 5
- ⑪大栄黒ボク台地(北栄町) 8
- ⑫大井手用水流域(鳥取市) 20
- ⑬安藤井手流域(八頭町) 21
- ⑭横尾棚田団地(岩美町) 23
- ⑮つく米棚田団地(若桜町) 24

とっとい登録伝統農地 | -1-① (V-⑤)

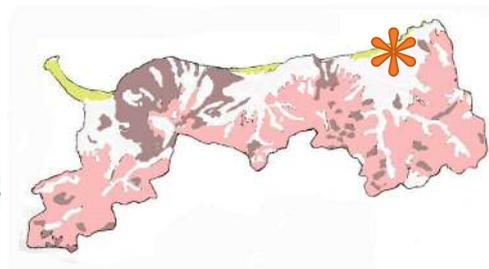
【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	◎	○	◎	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

砂丘らっきょう団地

【主要作目】
・らっきょう



【所在地】鳥取市福部町
 【連絡先】砂丘らっきょう生産組合
 Tel.0857-75-2078
 (又は鳥取市農業委員会、鳥取県農業会議)



写真:「福部らっきょう写真コンテスト」より

砂の短所を、強みに活かす

千代川河口を中心に東西16kmの間に発達した東部砂丘地帯に位置する福部砂丘地。約15万年ともいわれる気の遠くなるような時間の中でつくられた大自然の贈り物である。

海拔約70mの小高い砂丘は飛砂が激しいため、起伏状のまま「丘なり開墾」された。さらに、粘土分が少なく、水もち・肥もちが悪いことを逆にとり、特産「らっきょう」の地位を確立している。

(1) らっきょう導入から百年

らっきょうが導入されたのは、

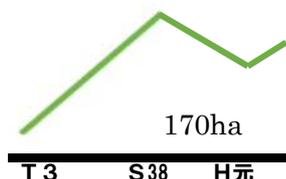
- ① 江戸参勤交替の付け人が持ち帰った
 - ② お伊勢参りの村人が持ち帰った
 - ③ 朝鮮半島からの海難漂流者による
- の3説あるが、根拠となる資料はない。

本格的に栽培されたのは大正3年に佐々木甚蔵と浜本四方蔵の両氏によって50a栽培に成功したのが最初とされ、平成26年はらっきょう導入から百年となる。

(2) 全国市町村では第1位の産地

らっきょうは夏に植え付け、翌春5月下旬から6月中旬に収穫・出荷される。栽培面積は昭和40年代に170haをピークに100haの大台を維持し、全国市町村第1位を誇る。らっきょう一色の団地が形成されている。販路も、関西市場を中心に関東市場へ3分の1が販売されるなど、全国的である。

産官学が連携した技術開発の取り組みは他の模範である。



(3) らっきょうの花は、地域のシンボル

今一度訪ひたしと思ふこの村に
 らっきょうの花咲き盛るころ(皇后陛下)

らっきょうは10月下旬になると、紫色の可憐な釣鐘状の花が咲き乱れる。平成17年「鳥取市の花」(以前は福部村の花)に選定された。昭和62年の「わかとり国体」を契機に、毎年「らっきょう花マラソン大会」が開催されている。県外や外国籍の選手も参加し、千数百人がらっきょうの花畑と調和する自然景観の中で思い切り汗を流し、鳥取県を代表する健康マラソンに成長している。

(4) 砂丘らっきょうは勤労体験学習の場

鳥取市立福部中学校では、砂丘特産のらっきょうの掘り取りや根切りを手伝う体験を食育学習に導入。生徒全員が各農家に配属され。特産物のらっきょうへの理解を深め、勤労の喜びを知ってもらおうと毎年行っている。

また、らっきょう生産組合では、一般消費者に向けた「1坪農園」も実施している。

とっとい登録伝統農地 | -1-② (V-⑥)

【登録部門(価値評価)】

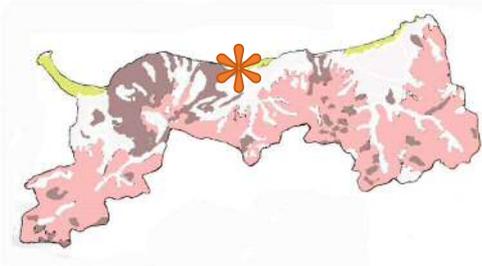
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土 ☆	2 黒ボク土	3 褐色土	4 灰色土	観	○	○	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

北条砂丘

【主要作目】

- ・らっきょう
- ・ながいも
- ・ぶどう
- ・白ねぎ



【所在地】東伯郡北栄町

【連絡先】北条砂丘土地改良区

TEL.0858-36-2004

(又は北栄町農業委員会、鳥取県農業会議)



写真提供: 北栄町農業委員会

防風林、スプリンクラー完備で発展

天神川下流に発達した中部砂丘地帯の西側(北栄町側)に連なる砂丘地。東西12kmに及び、標高は10~30mで比較的起伏の少ない平坦な砂丘地となっている。

砂丘地は粘土の含有割合が少なく保水性に乏しいが、①空気相(酸素)の割合が多い②土層が深い③土が扱いやすく作業性がよいなどの特色を活かした。「砂丘らっきょう」「砂丘ながいも」「砂丘ぶどう」「白ねぎ」などが定着している。

(1) 北条砂丘の開発は江戸時代から

砂丘開発は飛砂と乾燥との戦いであった。江戸時代後期には、榊田新蔵たちのように、後世に残る業績を残した者もあったが、ほとんどは、「浜井戸」と呼ぶ小規模な池を掘り、人の肩による汲み上げかん水をたよっていた。

このため昭和20年代には、全国に先駆けて畑地かんがい事業が実施された。



写真提供: 「北栄町制施行50周年記念要覧」より
北栄町農業委員会

(2) ながいもの新品種「ねばりっこ」開発

ながいもの栽培は、明治24年頃から始まり、今日の足がかりをつくった。

かん水施設の整備に伴い、「早掘りながいも」として脚光を浴び、昭和40年代には約100haの産地にまで発展するが、昭和50年代には青森、北海道の周年出荷攻勢に押されて低迷期を迎える。周年安定出荷体制の確立と新品種「ねばりっこ」(在来ながいも×いちょういも)の開発(鳥取県園芸試験場)で新たな戦略を展開している。

(3) 果樹「ハウスぶどう」果樹類

砂丘地では、古くは明治時代に桃、ぶどう、かんきつなどが栽培された。

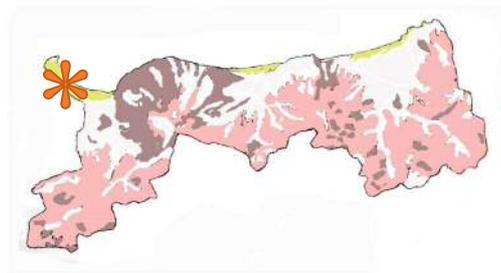
砂丘地のぶどう栽培は明治42年に下北条村の田江泰蔵、石賀安蔵両氏が導入したのが始まりとされる。昭和30年代前半までは、露地栽培の甲州ぶどうが中心だったが、その後、ハウス栽培への転換を図り、現在では、巨峰、ピオーネ、シャインマスカット、デラウェアなど多品種が栽培され、平成21年には栽培100年を迎えた。

(4) 現在では「らっきょう」が主力

戦後、化学繊維に取って代わられるまでは生糸の需要が高く、養蚕業が盛んであった。このため、桑の木が多く栽培されていた。昭和25年には葉タバコが導入され、栽培面積も多かったが、現在ではタバコ需要の動向に伴い減少が続いている。

平成14年には、新規作物としてらっきょうを本格導入した。健康志向の高まりとも相まって、現在では、砂丘畑での作付けが最も多い農産物である。また、最近では、白ねぎの耕作も増加している。

とっとい登録伝統農地 | - 1 - ③ (V-⑦)



【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土 ☆	2 黒赤土	3 褐色土	4 灰色土	観	○	◎	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

弓浜半島砂丘畑

【主要作目】

- ・白ねぎ
- ・にんじん
- ・さつまいも
- ・葉たばこ

【所在地】米子市・境港市(鳥取県西部)
 【連絡先】白ねぎ改良協会(JA 鳥取西部内)
 Tel.0859-27-5961
 (又は米子市・境港市農業委員会
 鳥取県農業会議)



写真提供: JA 鳥取西部

日本で最も壮大なスケール砂州

大山の西側に広く分布する花崗岩山地の砂礫を日野川、佐陀川等が大量に押流し、美保湾と中海をあわせた湾内に堆積したもので、鳥取県砂丘地面積の約半分を占める。①飛砂が少ない②地下水位が高い③地形的に起伏の少ない平坦であるという特徴をもつ日本一の砂州である。

この砂州は、外浜、中浜、内浜の三帯の砂堆に大別され、微妙に砂質を異にする。

(1) 地下水位が高く、早くから開発

安土桃山時代(1500年代後半から1600年代にかけて)移住開拓者により相ついで開拓が進められ、麦、粟、綿、麻などの栽培が盛んとなった。特にこの時期には稲作が重視されたが、かんがい用水がないため栽培は困難であった。江戸時代中期(1700年代)に米川用水が引かれ今日、弓浜半島の用水動脈として水田開発及び畑作の安定に大きな役割を果たしている。一方、地下水は底に海水層、その上にレンズ状の真水層という特殊な構造をもち、真水層が乾燥を防ぐとともに浜井戸を養って、西部地域の一大農業地帯となっている。

(2) 農業の変遷

①開発当初は「米作」最重視

藩政時代の貢租(年貢等)は米によって納められたため、かんがい可能なところはすべて水田となり、その他の乾燥地はすべて砂畑として麦、粟、さつまいも、とうもろこし、かぼちゃなどが栽培された。

しかし、畑作物の栽培技術や販売体制はいずれも未熟なもので、経営は不安定であった。

②明治・大正時代に「伯州綿」から「養蚕桑」

米川が開通し、綿の生産力向上と藩の奨励により、明治10年代には綿の価格は好況を続け、10a当たりの収入は米の5倍に匹敵するものとなり、全国屈指の綿産地となった。

その後、化学繊維に押されて綿価は急落し、綿作りに代わって桑作りが盛んとなり、西日本有数の養蚕地帯となった。しかし、昭和10年代に生糸の最大輸出国との交戦により販路が途絶し、衰退した。



写真提供: 境港市農業公社

境港市は平成21年から遊休農地を活用して綿栽培に取組み、綿畑の風景が復活しつつある。

③綿・桑から白ねぎの一大産地形成へ

養蚕衰退の後、導入されたのが白ねぎ。弓浜砂丘地は、さつまいも、さといも、だいこんなどととも野菜産地に生まれ変わるが、なかでも白ねぎは、伯州一本葱の育成と採取体制を確立するなど、揺るぎない大産地を形成して今日に至る。

【登録部門(価値評価)】

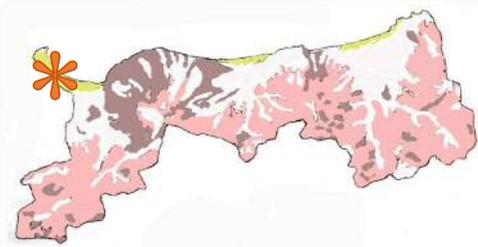
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土 ☆	2 黒赤土	3 褐色土	4 灰色土	○	○	○	○

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

中海干拓地

【主要作目】

- ・だいこん
- ・白ねぎ
- ・さといも
- ・さつまいも
- ・葉たばこ



【所在地】 米子市・境港市

【連絡先】 米子市農業委員会

☎0859-23-5275

境港市農業委員会

☎0859-47-1053

(又は鳥取県農業会議)



写真提供: 県農地・水保全課

干拓事業の歩み

国営中海土地改良事業は、中海の干拓による農地約 2,230ha の造成(干拓事業)と中海・宍道湖の淡水化により、既耕地も含めて約 7,300ha の農業用水の確保を目的として昭和 38 年に着工し、平成 4 年までに 4 干拓地(彦名、弓浜ほか) 534ha の造成と中浦水門を始めとする淡水化の施設建設を終えた。その後、平成 14 年、国は淡水化の中止を決定。彦名、弓浜干拓地は既設用水路の改修等を行って、平成 25 年度末をもって事業完了となった。現在、彦名・弓浜干拓地ではだいこんなど野菜の大規模営農が行われている。

(1) 干拓事業の沿革・経緯

昭和 29 年、鳥取県は中海埋立、弓浜半島の農業開発、日野川の多目的開発の一環として地域の総合開発計画を策定し、調査開始。昭和 38 年に国が事業着手し、昭和 43 年 12 月に本格的な工事が開始された。事業は昭和 44 年に新規開田抑制通達が出されたことから水田から畑へと土地利用計画の見直しが行われた。その後、淡水化による水質悪化の懸念も大きくなり昭和 63 年に淡水化試行が延期された。時代が平成になると大型公共事業の見直し機運が高まり、鳥取、島根両県の意向を踏まえ、農水省は平成 14 年 12 月に淡水化事業の中止を決定。その後、計画変更が行われ、淡水化に替わる新たな水源施設を整備し、平成 26 年 3 月、国営中海土地改良事業が完了した。

(2) 米川用水路の整備

鳥取県側の淡水化中止に伴う代替の農業用水として「米川用水路」を整備することとし、干拓地への送水施設や調整池が整備、あんきよ暗渠、支援水路の整備も行われた。

(3) 営農状況

弓浜・彦名ともに干拓営農組合を結成し、県等関係機関と連携し生産振興に取り組んでいる。

①弓浜干拓地

平成元年に完成した 1 ほ場 30a の 103ha で、主にだいこん、さつまいも、さといも、ごぼう、葉たばこ等の多彩な農作物が栽培されている。中でもだいこんを基幹作物としてさといもなどと輪作を行っている法人は干拓地を含めた農地集積により規模拡大を行い大型機械による省力生産体制で営農している。

②彦名干拓地

平成 4 年に完成した 1 ほ場 30a の 109ha で、主に白ねぎ、にんじん、さつまいも、さといも、葉たばこ等が栽培されている。平成 12 年の鳥取県西部地震により、広域にわたる液状化現象で下層部の^{しゅんせつど}浚渫土が畑面に噴出し排水不良が深刻となったが、県営事業で暗渠排水、客土の実施と農家の営農努力により排水性が向上している。

とっとい登録伝統農地 I - 2 - ① (V-⑩)

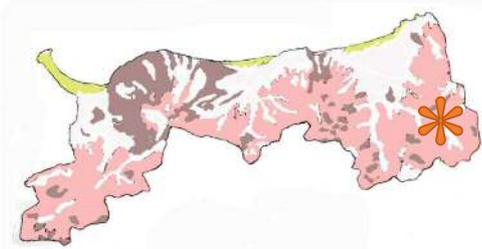
【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土 ☆	3 褐色土	4 灰色土	観	○	○	☆

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

広留野高原

【主要作目】
・夏だいこん



【所在地】八頭郡八頭町・若桜町
【連絡先】八頭町農業委員会
Tel.0858-76-0207
若桜町産業課
Tel.0858-82-2238
(又は鳥取県農業会議)



写真提供：若桜町農業委員会

高原を生かした夏だいこん

広留野高原は、県東部の兵庫県境にある扇ノ山の裾野に広がり、若桜町と八頭町にまたがる広大な地域で、標高は650m～850mである。

土壌は黒ボク土であり、表層多腐植質となっており、有効土層が深いので、根菜類のだいこん等の栽培の適地である。

なお、夏でも冷涼な高原の気象条件を活かして、高品質な夏だいこんを生産しており、特産地となっている。

(1) 広留野高原への入植

昭和23年に数戸の農家が、およそ5haもの原野を苦難の末、命がけでの手作業で開拓して入植した。まさに、開拓当時の並々ならぬ苦闘が偲ばれる。

当初は換金作物となる適当な野菜が見つけれなかった。

その後開拓が進み、ようやく、昭和40年頃に夏だいこんに取り組み、約31haの産地となってきた。



写真提供：若桜町農業委員会

(2) 苦闘の連続を克服

夏だいこんの導入後10年を経過した昭和49年以降に、他産地と同様に、だいこんの連作障害が発生し、品質が著しく低下した。そこで、連作障害対策のため「広留野生産対策協議会」を設置し対応した。

対策として、サブソイラー、プラウ耕、土壌消毒、肥料設計の変更等を行った。

また、作型・品質等、生産技術統一を図ったために、連作障害も減り安定生産が可能となってきた。

(3) モデル的な野菜産地となる

広留野開拓は、生産者の努力と関係機関の協力により、夏だいこんの安定生産とロットの確保が出来るようになり、モデル的な野菜産地として名声を博するようになってきた。この生産対策協議会は、農業の担い手としての実績が認められて、平成元年には日本農業賞の鳥取県代表に、平成4年には鳥取県朝日農業賞を受賞した。

(4) 甘さと辛さとのバランス

現在では7人の生産者で、14ha栽培している。出荷時期は7月下旬～10月中旬で、主な出荷先は、県内市場や姫路市場となっている。

広留野だいこんは、夏だいこんとは思えない甘さと適度な辛味をもっており、消費者に人気がある。煮物にしても煮くずれせず、ダシのうまみをたっぷり吸い込むので、おいしくいただけるとの評判である。

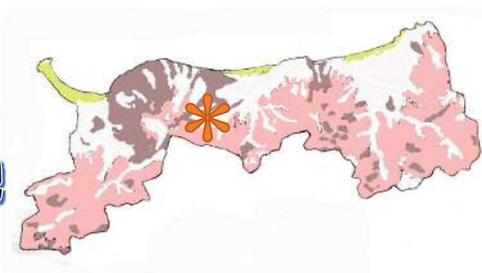
これは高原のため、低地よりも気温が5℃も低く、夏でも8月の気温が20℃以下で、だいこんの肉質もしまっており、甘さと辛さを凝縮しているからである。

【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土 ☆	3 褐色土	4 灰色土	観	○	○	◎

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

久米ヶ原黒ボク台地



【主要作目】

- ・すいか
- ・花木

【所在地】倉吉市

【連絡先】久米ヶ原土地改良区

TEL 0858-28-1975

(又は倉吉市農業委員会、鳥取県農業会議)



写真提供: J A 鳥取中央

すいか栽培が盛んな台地

久米ヶ原地区は、県中央部にある倉吉市の西部に位置する 340ha の広大な丘陵台地である。大山火山灰に由来し、土壌は黒ボク土で、表層多腐植質である。県の中央部の丘陵台地にある典型的な畑土壌であり、古くから畑作が盛んに行われてきた。主要作物はすいかであるが、台地上にあるので、かんばつ常襲地帯であったが、現在は^{かんすい}灌水施設が完備し、優良な畑作地帯を形成している。

(1) 農地の基盤整備でよみがえる

久米ヶ原台地は昭和 40 年から 50 年にかけて、県営かんがい排水事業やほ場整備事業が実施されてきたので、早ばつを回避することができ、すいかの生産が安定したばかりでなく、さらにキャベツやブロッコリーの栽培が可能となり、優良農地へとよみがえった。また、花木等も導入されるようになり、農家の畑作経営が画期的に向上してきた。



写真提供: J A 鳥取中央

かんがい方式が改善

され、スプリンクラーからチューブに変更となり、新規作物の導入が可能となった。

(2) 倉吉特産すいかの生産と販売

倉吉市内では、平成 25 年に農家 130 戸が 90ha のすいかを栽培しており、近隣の大栄すいか産地と同様に、県下でも有数のすいか産地となっている。

倉吉すいかは品質管理のために、すいか選果場において、糖度が高く高品質のすいかを選別し、出荷販売に供している。

(3) 高級ブランドの「極実すいか」

一般に栽培されてきたすいかは、病気や連作防除のために、かんぴょうなどを台木としているが、極実すいかは、すいかの台木に接木するので、味が極めて美味しいことから、極実すいかと名づけられた。

この極実すいかは、糖度が 13 度以上あり、皮がうすくシャリ感があり、食感が良く品質が極良好のため、高値で販売されており、倉吉市のブランド農産物となっている。現在 8 ha 程度栽培されている。

販売先は東京青果中心であり、高級品として、デパート等で販売されている。

(4) 新しい台木「どんなもん台」

極実すいか台木用に鳥取県園芸試験場で開発された台木「どんなもん台」は、場内の「世界すいか遺伝資源銀行」の野生すいかの中から、つる割病に強いものが選抜された。

試験の結果、従来使用されていたすいかの台木よりも、つる割れ病に強く、果実肥大や糖度が同等以上で、食味が良かった。

どんなもん台の台木は、現地で普及に移された技術として、評価されている。

【登録部門(価値評価)】

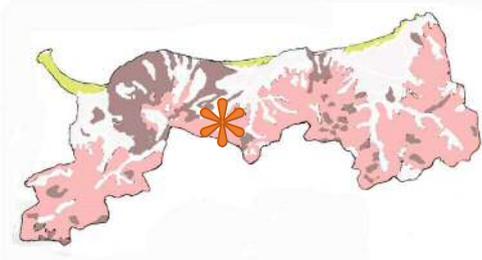
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土 ☆	3 褐色土	4 灰色土	○	◎	◎	◎

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

関金黒ボク台地

【主要作目】

- ・ 水稲
- ・ 梨
- ・ 白ねぎ
- ・ 白小豆



【所在地】 倉吉市関金町

【連絡先】 天神野土地改良区

☎0858-28-1652

(又は倉吉市農業委員会、鳥取県農業会議)



写真: 倉吉市 HP より

1 天神野台地

(1) 開田に取り組んだ2人の偉人

倉吉市関金町泰久寺の山根愛吉は、広大な台地が荒地となっていたので、明治45年に開田計画を県に出願し、大正元年に認可がおりた。さらに東郷町田畑の益田伝吉は大正9年に天神野耕地整理組合長に就任し、私費を投じて工事を継続し、年度別の実施計画を策定して、農林省の助成を受けるために、たびたび上京し、資金の確保に努力した。

(2) 溜池の造成等事業の経緯

この事業では関金町明高に頭首工を設け、小鴨川から水をひき、これより導水工事や隧道工事を行って幹線水路を掘削した。また、中間溜池を8か所設置し、天神野台地にかんがいし、水田を造成した。

大正11年には、最大の溜池である狼谷溜池(大山池)が2年がかりで完成し、さらに昭和14年までに残りの溜池が完成し、350haの美田が造成された。



写真提供: 谷口幸夫氏

広大な黒ボク台地が美田となる

関金天神野・真野原台地は大山の東方にある広大な台地であるが、水源がなく、草木の茂る雑木林であった。土壌は大山火山灰による黒ボク土に深く覆われていた。

先人達が開田に立ちあがり、この地区天神野台地に350ha、真野原に100haの美田を造成した。この水田土壌は腐植層が厚い多湿黒ボク土である。地区内には、多くの溜池が造成されている。

(3) 山陰唯一の円筒分水工と出前学習会

円筒分水工は、狼谷溜池からの用水を5つに分水する施設で、昭和43年に関金町大鳥居に完成し、開拓地であったこの地の水争いが解消されたと言われる。

農業用水を一定の割合で分水する装置であり、山陰で唯一の施設として注目されている。

天神野土地改良区では、倉吉市内の小中学校と連携し、バスで基幹施設を巡る

出前学習会を、10年余り前から実施している。



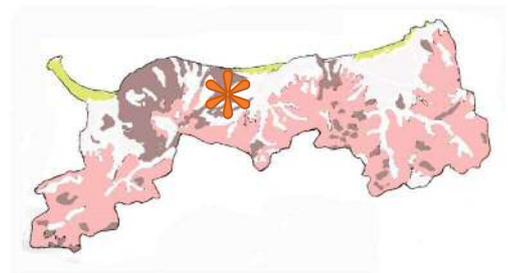
写真提供: 「とっとり井手物語」より
県農地・水保全課

2 真野原台地

倉吉市関金町野添から取水し、明高までの5.3kmの水路であるカウモ井手が安政6年(1859年)、鳥取藩の屯田兵政策により開設された。その結果、真野原台地には100haの水田が造成された。

現在では、明高集落において、カウモ井手の豊富な水を利用して水車を回したり、名物のそば打ちや、井手下りのイベントがあり、多くの来訪者で賑わっている。

とっとい登録伝統農地 | -2-④ (V-⑪)



【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土	3 褐色土	4 灰色土	観	○	◎	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

大栄黒ボク台地

【主要作目】

- ・すいか
- ・ブロッコリー
- ・ハウス野菜
- ・花き
- ・芝

【所在地】 東伯郡北栄町
【連絡先】 大栄町土地改良区
Tel.0858-37-3837

(又は北栄町農業委員会、鳥取県農業会議)



写真提供: 北栄町農業委員会

豊かな黒ボク畑

大山の北東部に展開する広大な丘陵台地である。土壌は大山火山灰による黒ボク土で、表層多腐植質であり、黒ボク土の中では最も典型的な土壌である。

有効土層が深く排水性もあり、しかも保水性も高いので、各種の畑作物の栽培に適する。県内では有数な畑作地帯であり、高品質な大栄すいかとして大産地が形成できたのも、土壌条件に極めて恵まれているからである。

(1) すいか導入の歴史

この地に初めてすいかが導入されたのは、明治40年にさかのぼる。阪本長蔵が園芸事業を興そうとして、大栄黒ボク畑に40aのすいかの栽培を開始した。平成6年には、すいかの原産地ボツワナをはじめ、世界のすいかを集めて「世界スイカサミット」を開催し、生産者の自信を深め、すいか栽培にも弾みをつけた。

平成19年には、『大栄西瓜100年記念事業』を実施した。



写真提供: 北栄町農業委員会

(2) すいか栽培の現状

すいかの大産地である北栄町(旧大栄町)では、大栄すいかとしてのブランドが確立している。栽培面積は平成23年には186ha、販売額も18億円を超え、県内のすいかの栽培面積420haの44%を占める。平成6年には、農業用ダム「西高尾ダム」が完成し、全てのほ場に灌水施設が整ったため、施設化が進み、農産物の安定生産が可能となった。

(3) 高品質な大栄すいか

昭和55年に導入したすいかの品種は、大玉すいかである「縞王MK」が主流であった。近年では、「春のだんらん」や「筑波の香り」など新品種を導入し、さらに糖度が高く、肉質も良いものとした。

平成18年には、大栄すいかのブランド力を高めるために、最新型選果機を導入し、品質管理に万全を期している。出荷先は京阪神、関東、九州だが、最近では、香港など外国への輸出にも積極的に取り組んでいる。

(4) すいか・ながいも健康マラソン

すいかの美味しい7月第一日曜日に、毎年「北栄町すいか・ながいも健康マラソン大会」を実施し、27年目となる。すいかが食べ放題であることが話題をよび、全国から多数の参加者のある好評なイベントとなっている。これを通じて、都市農村交流が可能となり、大栄すいかや砂丘ながいも等の素晴らしさを、全国発信している。

【登録部門(価値評価)】

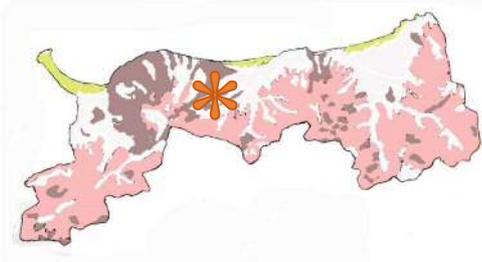
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土 ☆	3 褐色土	4 灰色土	観		○	◎

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

八橋黒ボク台地

【主要作目】

- ・芝
- ・梨



【所在地】東伯郡琴浦町

【連絡先】琴浦町農業委員会
Tel.0858-55-7809

(又は鳥取県農業会議)



写真提供: (株)チュウブ緑地

(1) 芝栽培の端緒

黒ボク土壌に適する換金作物として、昭和33年に福井県から種芝を購入し、2haの姫高麗芝を試作したのが始まりである。翌年20haに拡大し、その後ゴルフ場の建設ブームや公共事業の増加等で需要が高まり、急速に生産量が増加していった。

昭和46年以降は、水田の転換作物として急速に栽培面積が増大している。

(2) 琴浦町の高品質芝生産

芝の生産面積が茨城県について第2位を誇る鳥取県において、県内の約4割に当たる298ha(平成22年)を琴浦町で生産しているが、主として旧東伯町の水田転換畑での栽培面積が多い。

琴浦町全体の生産者数は308人で、販売額は13.9億円とかなり有用な換金作物となっている。高品質の芝は、ゴルフ場や庭園等での需要が増加しており、日本芝の全国的な産地として認められている。

(3) 産官学の連携による栽培指導

平成23年に鳥取県芝生産指導者連絡協議会により、「鳥取県芝振興ビジョン」が策

表土の深い黒ボク土が適地

この地区は大山の北東部に位置し、広大な丘陵地を形成している。

土壌は黒ボク土で、表層多腐植質であり、大栄黒ボク台地と同じ土壌が連なっており、県中部の広大な畑地帯となっている。

栽培作物は芝が多く、表土の腐植層があるので、芝栽培の適地となっている。そのほか、梨栽培も盛んな地帯である。

定された。今後の需要に応じて対応できる芝産地を目指すものである。

この協議会により、芝の現地調査を行い、栽培指針の作成、系統選抜、種芝ほ場の指定などを行った結果、全国に誇れる高品質の芝の産地として評価されるようになった。

(4) 県のオリジナル品種の育成

鳥取県独自の優れた品種の芝がほしいとの産地要望にこたえるために、昭和59年から鳥取県園芸試験場で新品種の育成に取り組み、平成20年3月に「グリーンバードJ」が種苗登録申請された。

この品種はノシバで、生育が旺盛であり、年1回の収穫が可能であるので、収益性が高い。利用面では、葉が小さく、横に広がる特性をもっているため、芝刈り管理の省力化が見込まれる。

今後この品種を用いた学校の校庭芝生化などが期待されている。また、従来のノシバ栽培の作付面積30%を、この品種で更新することを目指している。



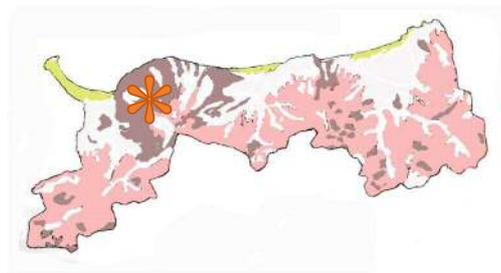
写真提供: 県園芸試験場

【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土 ☆	3 褐色土	4 灰色土	観	○	○	◎

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

大山黒ボク台地



- 【主要作目】
- ・ブロッコリー
 - ・芝
 - ・梨
 - ・お茶

【所在地】西伯郡大山町
 【連絡先】大山町農業委員会
 TEL.0858-58-6115
 (又は鳥取県農業会議)



写真提供: 大山町農業委員会

ブロッコリー、芝、梨に好適土壌
 大山北部の裾野に広がる丘陵地で、畑土壌は黒ボク土からなり、表層多腐植質～表層腐植質黒ボク土である。
 大山町の畑地は、表層腐植質黒ボク土が多く分布しており、水田は主として灰色低地土で、灰褐色壤土となっている。県内の他地区に先駆けて、ブロッコリーの生産に最も取り組んだ。芝も県内作付面積の約50%を占めている。ほかに梨の栽培も行われている地域である。

(1) ブロッコリー栽培の先駆

ブロッコリーは水田転換作物として、昭和46年に大山町の旧中山町に、鳥取県で初めて導入された。県の農業技術者でプロジェクトチームを結成し、転作作物としての適応性を検討した。



写真提供: 大山町農業委員会

その後、作付面積は年々増加して昭和50年代後半には、秋冬ブロッコリーの栽培面積が120haとなり、当時中山町は西日本一の産地となった。

しかし、アメリカ等からブロッコリーが大量輸入されるようになり、価格が下落し作付面積が減少した。

(2) 健康志向で再び需要増大

最近では日本人の食生活が変わり、彩りと栄養バランスに富んだブロッコリーの需要が急速に高まり、県内のブロッコリーの栽培面積は704ha(平成23)となり、旧中山町を中心とした県西部地区の栽培面積は422haとなり、年々増加している。

(3) 芝生産の取り組み

大山町では昭和30年代から生産が始まり、琴浦町、北栄町とともに全国第2位の芝産地を形成している。大山北嶺に広がる黒ボク土壌の丘陵地を中心に150戸の農家が約350haで生産し、主に造園、土木、ゴルフ場用として全国に出荷されている。

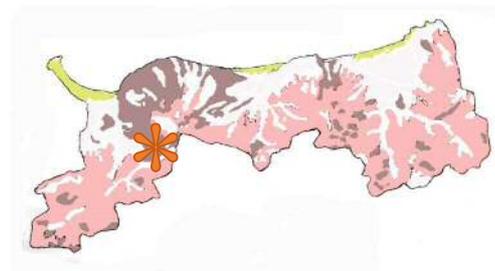
大山北壁を背にして眼下には日本海を望む広大な芝畑は、開放的で独特な農村風景を生み出している。

(4) 梨栽培の取り組み

大山町での本格的な梨栽培は戦後であり、二十世紀梨を中心に栽培されていた。

平成23年には生産者202人で93ha栽培している。魅力ある梨づくりを目指して「大山町梨産地振興プラン」が策定され、選果に糖度センサーを導入し、高品質の梨を販売している。

現在は二十世紀が7割だが今後は二十世紀を約4割とし、鳥取県園芸試験場育成の「なつひめ」や「新甘泉」などを組み入れ、さらに、単価の高い「王秋」や「あきづき」も導入し、収益の向上を目指す。



【登録部門(価値評価)】

奥大山黒ボク台地

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土 ☆	3 褐色土	4 灰色土	観	○	○	◎

【主要作目】
・ブルーベリー
・だいこん

【所在地】 日野郡江府町
【連絡先】 江府町農業委員会
Tel.0859-75-6620
(又は鳥取県農業会議)

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)



写真提供: 江府町農業委員会

強酸性黒ボク土にブルーベリー
本地区は国立公園大山の南壁や烏ヶ山が望める、笠原地区一帯の高原台地である。大山火山灰に由来する黒ボク土で、表層多腐植質であり、極めて強酸性土壌である。
笠原は高原だいこんの産地でこの地に酸性土でも栽培可能なブルーベリー団地が新たに誕生した。

(1) ブルーベリーへの挑戦

国立公園大山の南側にある笠原は、標高 720m~750m の高原にあり、(株)かわばたの川端雄勇社長が江府町の仲介で農地を借り、強酸性土壌でも栽培可能なブルーベリーを植栽した。

平成 16 年 6 月、鳥取県で第 1 号の農業特区として発足した。

企業が農地をリースで取得することが珍しい頃であった。



写真提供: 江府町農業委員会

(2) ブルーベリーの植栽

10ha の農地に 40 品種のブルーベリーを植栽し、全国でも有数のブルーベリー団地を目指した。

品種は、西日本に多いラビットアイ系よりも、寒冷地・高冷地向きのハイブッシュ系を重点としている。

7 月上旬~9 月中旬まで、連続して収穫が可能なように、熟期が極早生から極晩生までの品種を組み合わせた。

(3) 観光農園をめざして

ブルーベリーの収穫は極めて人手を要するので、平成 19 年から観光農園をオープンして、事業を運営している。

ブルーベリーは生食することが多いので、化学合成農薬はまったく使用せず、化学肥料は基準の 5 割減としている。平成 20 年には、鳥取県特別栽培農産物として認証された。土づくりとして完熟堆肥を施用し、除草剤は使用せず、防草シートを被覆している。消費者の立場を考えて、環境にやさしいブルーベリー栽培として、注目されている。

(4) 地域資源としての農園

会社の職員は 3 人のみで、地元からパート職員を 5~10 人雇用しており、雇用促進にも貢献している。農園のそばにはカフェテリアがあり、奥大山の美しい自然環境に恵まれ、農園は農業資源ばかりでなく、地域活性化の要として活用されている。

ちなみに、ブルーベリーは、アントシアニンやポリフェノールを多く含み、健康食品として極めて将来性が高い。

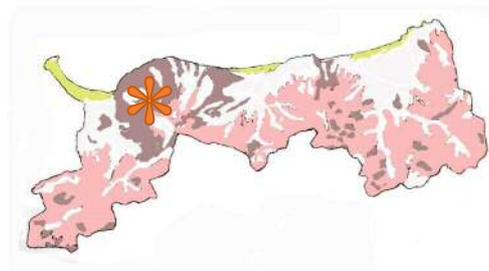
【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土	3 褐色土	4 灰色土	◎	◎	◎	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

大山高台地帯

【主要作目】
・酪農



【所在地】西伯郡大山町
 【連絡先】大山町農業委員会
 ☎0858-58-6115
 (又は鳥取県農業会議)



写真提供: 大山町農業委員会

1 香取開拓団地

標高 350~1,000m に広がる高原地帯で、面積は 1,150ha に及んでいる。

(1) 香取開拓の由来

昭和 21 年に中国から引き揚げてきた 100 戸余りの入植団地で、大半が香川県の出身者であることから、香取開拓団と言われる。

(2) 酪農経営をめざす

入植当初は、農地の開拓で苦闘の時代であった。作物は自給生活のためのみであった。昭和 40 年代から酪農経営の基盤づくりをし、昭和 50 年代から牧草類や青刈りトウモロコシなど自給飼料の生産体制を整えた。

平成 25 年の農家戸数は 13 戸で、大型専業酪農経営が主であり、飼育牛数は成牛 862 頭、育成牛 595 頭となっている。

(3) 美しい村づくり

自然林を風致林とし、沿道は花いっぱい。農協事務所等は 1 か所に集中し、公園のような風景で、美しい村である。また、農業青年の研修や、子供たちの農業体験、自然

大山の高原が酪農天国

県西部にある大山の北部から西部にかけての高原台地では、牧草が栽培され酪農経営が行われている。

土壌は大山火山灰に由来する黒ボク土であり、黒ボク土の深い厚層多腐植質黒ボク土～表層多腐植黒ボク土からなる。

冷涼な気象条件のため一般作物の導入が困難であるが、地域の特性を活かして酪農に取り組んでいる。秀峰大山の裾野であるので、景観は素晴らしい。

との体験教室を受け入れている。昭和 63 年には、国土庁(現国交省)のアメニティコンクールで、全国最優秀賞を受賞した。

2 県営大山放牧場

大山西部の裾野である柘水原高原の一角にあり、標高は 650m である。

(1) 乳牛の放牧

草地面積は 105ha あり、県内酪農家から乳用子牛を 300 頭内外預かり、自然豊かな牧場に放牧する。

秀峰伯耆大山を背景に、草地でホルスタイン牛が放牧されている風景は実に美しく観光客に人気がある。



写真提供: 県畜産課

(2) 大山まきばのみるくの里

施設面積は 4 ha あり、畜産物加工展示・販売施設である。地元産の牛肉や牛乳、ヨーグルト、アイスクリーム等を販売している。県の酪農関係の畜産物や、大山の美しい自然の PR に最も好適な施設である。

【登録部門(価値評価)】

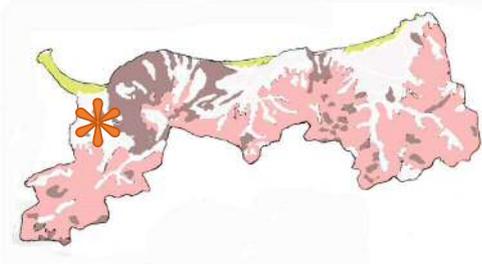
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土 ☆	3 褐色土	4 灰色土	●	○	○	◎

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

南部五色ヶ丘 果樹団地

【主要作目】

- ・柿
- ・梨



【所在地】西伯郡南部町

【連絡先】南部町農業委員会

TEL.0859-64-3792

(又は鳥取県農業会議)



写真提供: 南部町農業委員会

富有柿に特化した地区

米子市の南方の丘陵地にある。昭和 40 年代に、標高 150m の高台に造成された五つの果樹団地であり、柿と梨が植栽されているため、五色ヶ丘果樹団地と呼ばれている。

土壌は黒ボク土で、表層腐植質であり、果樹栽培には好適な土壌である。

入植した大規模経営者は、意欲をもって果樹栽培に従事しており、現在は後継者が果実部のリーダーとなっている。

柿栽培では富有柿が殆どであるが、現在は平成 22 年に鳥取県園芸試験場で育成された大玉の早生甘柿「輝太郎」の導入も推進されている。

(1) 富有柿は輸出農産物となる

南部町(旧会見町と西伯町)は果樹栽培が盛んであり、平成 23 年には栽培農家は 126 戸あり、販売額は 2 億円に達する。

富有柿を主体とした柿が 43ha、梨が 20ha ある。

とくに富有柿は、果実が大きく果汁が多く、甘みが強く高品質である。また、日持ちするので、海外に輸出されている。



写真提供: 南部町農業委員会

(2) 五色ヶ丘の大規模果樹経営

昭和 40 年代になって、柿と梨の大規模複合経営農家を育成するために、町内の丘陵地に約 50ha の果樹団地が整備された。

関係農家は 29 人で、経営規模が 2ha 以上の大規模経営者が 12 戸もあり、果樹栽培の中核農家として活躍している。団地の果樹園では、土壌改良として機械で深耕し、山野草等の有機物施用による土づくりを実施している。また、かんすい施設も導入されている。

(3) 全国柿の種吹きとばし大会

毎年 11 月 23 日に、特産富有柿を食べ、その種を吹き飛ばすユニークなイベントがある。5 部門に分かれ、柿の種を吹き飛ばした距離を競う。全国から 500 人の参加者があり、優秀者には、抽選で韓国旅行が当たる。富有柿の PR に貢献している。

(4) ブランド梨「あいみ燦ゴールド」

地区内には梨の栽培も多く、二十世紀梨が主体である。なかでも、ゴールド二十世紀梨園は多目的防災網で覆われ、袋は 5 月中旬の子袋 1 回のみ。その結果、ほぼ無袋栽培となり、糖度が向上する。これが平成 12 年 7 月に「あいみ燦ゴールド」として商標登録されたブランド梨である。

現在 9 戸の農家が 2.3ha 栽培。平成 14 年以降は点滴かんがい技術を導入したため、安定生産が可能で、高値で販売されている。

とっとい登録伝統農地 | -3-①
(V-8)

【登録部門(価値評価)】

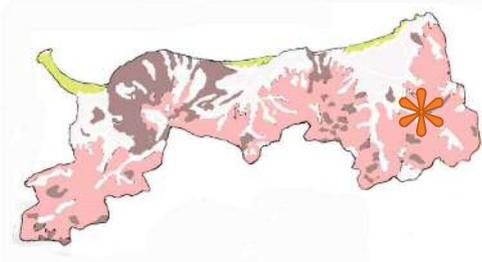
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土 ☆	4 灰色土	観	○	◎	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

因幡柿畑地帯

【主要作目】

- ・花御所柿
- ・西条柿



【所在地】八頭郡八頭町

【連絡先】八頭町農業委員会

TEL 0858-76-0207

(又は鳥取県農業会議)



写真提供: 八頭町農業委員会

まさに地域限定の甘柿
～花御所柿の里～

花御所柿は県東部の八頭町(旧郡家町)の丘陵地で栽培され、土壌は褐色森林土で埴壤土である。

栽培地は極めて限定されており、旧大御門村の大門、花、郡家殿、市谷、西御門などの集落に集中している。まさに、ここにしかない特産物であり、珍重されている。八頭郡内での栽培面積は16haしかない。また、近隣では西条柿等が多く栽培されている。

(1) 花御所柿のルーツは

今から約210年前の天明年間(1781年から1789年頃)に、八頭町花集落の農民、野田五郎助が大和の国(奈良県)から御所柿の枝を持ち帰り、渋柿に接木したのが始まりだと言われている。

当初は五郎助柿と呼ばれていたが、明治42年に農林省園芸試験場の恩田鉄弥博士がその風味を激賞し、栽培地の地名に因んで花御所柿と命名されたと言われている。

(2) とても甘くて美味しい柿

花御所柿は肉質がち密で果汁が多く、しかも糖度が18～20度と高いので、とても甘く、甘柿の中では最高であると評判が高い。熟期は11月下旬から12月上旬と他品種に比較して遅い。完熟前に食べると、少し渋みが残ることがある。

出荷の6割は、進物用として販売されている。12月上旬の霜が降りる頃が収穫の時期であり、赤く色づいた実が、落葉した柿の木にたわわに実る姿はまるで柿の花が咲いたようで、素晴らしい初冬の景観をなしている。

(3) 花御所柿で里づくり

古くから地元で根付き、長きにわたり農家が育ててきた花御所柿は八頭町の逸品であり、全国に誇れる特産物である。平成17年3月31日に「花御所柿の里づくり条例」を制定し、町、生産者、その他関係者等、産学官が一体となって花御所柿を核として地域振興し、文化の向上や、ふる里づくりを推進しようとしている。

(4) ユニークな「あんぼ柿」

八頭町は西条柿の特産地でもある。渋柿である西条柿は、一般には脱渋して販売しており、大変美味しい。しかし日持ちがしないのが欠点である。そこで独特の手法で西条柿を半生の状態に乾燥「あんぼ柿」にしている。美しいあめ色で、中がとろっとして甘く、フルーティであるので、最近では高値で販売され、有名なギフト品として注目されている。



写真提供: 八頭町農業委員会

とっとい登録伝統農地 | -3-② (V-⑨)

【登録部門(価値評価)】

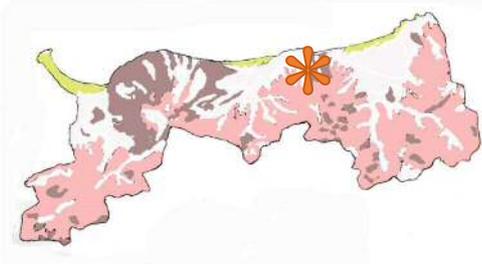
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土 ☆	4 灰色土	◎	◎	◎	☆

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

東郷池周辺 丘陵地帯

【主要作目】

- ・梨
- ・梅



【所在地】東伯郡湯梨浜町

【連絡先】湯梨浜町農業委員会

TEL 0858-35-5389

(又は鳥取県農業会議)



写真提供：湯梨浜町農業委員会

(1) 早くから二十世紀梨を導入

当地東郷池周辺に、二十世紀梨が導入されたのは、明治 39 年に伊藤馬蔵らにより栽培が行われたことに始まる。そして平成 26 年で 108 年の歴史を誇るに至る。

本町の梨園は、平成 23 年現在 275ha 栽培され、県全体面積の約 3 割を占めている。

とくに東郷地域の二十世紀梨は全国的に名が知れ渡り、出荷量日本一を誇る梨の生産地である。まさに梨王国であり、「東郷梨」のブランドを確立している。

(2) 高品質な東郷梨ブランド

高品質な梨販売を行うために、早くから県内でも最大規模の東郷梨選果場施設を作り、平成 9 年からは光センサーで高糖度の果実を選別する能力を備えた。これにより高品質梨の選別が可能になった。進物梨として価値も高くなり、市場における評価を得て、消費者の根強い人気がある。

「鶴の舞」は二十世紀梨ブランドとして有機栽培にこだわった高糖度の最高級規格品として、高級ギフト梨となっている。

近年では新品種への取り組みがなされ、

二十世紀梨のメッカ

県中部の東郷池周辺の丘陵地帯は、褐色森林土の埴壤土であり、丘陵の傾地を利用しているため地形的に排水良好で、高品質な二十世紀梨や梅等の栽培の好適地として利用されている。

東郷池の底からは温泉が湧き、池全体の保温効果があり、他地区より梨の生育が良好で熟期が早い長所がある。梨などの農業生産と温泉とがうまく融合して、観光地としても卓越した地域である。

青梨「なつひめ」や、赤梨「新甘泉」等の導入も試みられ、二十世紀と他品種を組み合わせた栽培に移行しつつある。

(3) 野花豊後梅は貴重な地域特産物

「野花豊後」は、昭和 15 年から 16 年に野花集落において発見された湯梨浜町原産の梅。特徴は、結実が安定していて、実が大きく果肉もしっかりしていて、極めて高品質な点である。

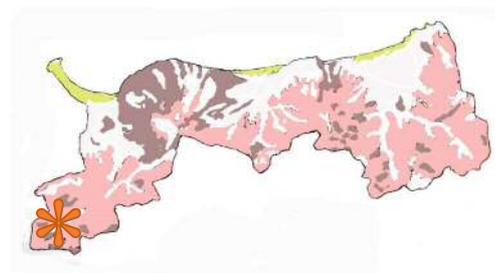
野花地区には約 2,000 本の梅の木があり、3 月下旬には丘陵地をピンク色の美しい花で埋め尽くす。東郷池・日本海を背景に望むこの景観は「山陰随一の梅林」と言われている。

この梅は加工梅として適しており、地元では梅ジュースや梅酒として愛飲されている。町の観光協会では「野花梅溪散策ツアー」を企画し、

多くの観光客が訪れていて、この梅を加工した梅干しや梅みそドレッシングなどは、土産品として好評である。



写真提供：湯梨浜町農業委員会



【登録部門(価値評価)】

日南山間地

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土	3 褐色土	4 灰色土 ☆	◎	◎	○	◎

【主要作目】
・水稲

【所在地】日野郡日南町
【連絡先】日南町農業委員会
Tel.0859-82-1902
(又は鳥取県農業会議)

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)



写真提供: 日南町町農業委員会

地形を活かした良質米の産地

県西部の一級河川である日野川の源流にある中山間地の水田は、良質米の産地として名高い。

土壌は灰色低地土で、埴壤土・灰褐色が多く、排水が良い。台地上の一部に、表層腐植質の黒ボク土が分布する。

これらの土壌は米の栽培に適しており、豊富な水と地形と気象条件をうまく活かして、良質米を多く産出しており、旨みが自慢の高級ブランド米もある。

(1) 米づくりが農業経営の主体

日南町は標高280~600mの準高冷地である。平均気温は標高490mの地区で約11℃と低く、農産物のうまみを左右する昼夜の寒暖差が大きい。また、町内には一級河川である日野川の源流であり、およそ80kmにもおよぶ豊かな水源と肥沃な土壌に恵まれた日南町は、良質米が生産される条件を備えている。

平成25年の水稲作付面積は、水田面積1,160haのうち760haで、営農の形態は水稲単作経営がほとんどである。

(2) おいしいお米の生産

品種はコシヒカリを中心に、ひとめぼれ、ヒメノモチ等が栽培されている。県内有数の良食味産地として知られており、県内唯一のヒメノモチ指定産地でもある。

平成15年から日野郡及び伯耆町の一部(旧溝口地区)の食味向上と消費者等へのPRを目的に開催されている「日野川源流米コンテスト」には毎年多数の出品があり、良質米生産の意欲が極めて高いことがうかがえる。

国内最大の米のコンクールである「米・食味分析鑑定コンクール」でも、平成23年・25年に町内の農家が受賞するなど、全国レベルでも実績を上げている。いずれも標高450mの台地にある日南町山上地区で、日照条件も良い水田で栽培されたもの。

(3) ブランド化への取り組み

全国的に米の需要は低下しており、米の販売価格は下落する方向にある。そうした中、他の産地・商品と差別化して消費者を獲得し、有利な販売展開を図るため、農産物のブランド化は必須である。

町では、にちなんブランド化促進事業に取り組み、(一財)エナジーにちなんが販売する「日南高原米」の販売に力を入れている。



写真提供: 日南町町農業委員会

【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	観	○	◎	☆
			☆				

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

気高砂壤土地域

【主要作目】
・しょうが



【所在地】鳥取市気高町
【連絡先】鳥取市農業委員会
Tel.0857-20-3391
(又は鳥取県農業会議)



写真提供: 鳥取市農業委員会

(1) しょうがのルーツは東南アジア

しょうがは、鹿野城主であった亀井茲矩が朱印船貿易で東南アジアから持ち帰り、気高町の日光で栽培するようになったのが始まりであると言われている。今から400年も前のことである。しかし近年は高齢化が進み、後継者不足や農機具の維持購入費の不安があり、以前は競うように栽培していたしょうが作りが大きく減少して、このままでは、伝統のしょうが作りが失われてしまうのではないかと危機感があった。

(2) 農事組合法人・日光農産の立ち上げ

しょうが作りを回復し、もう一度活性化したいとの思いを抱き、平成23年3月に有志4人で「日光生姜生産組合」を結成し転作田で共同栽培が始められた。同年12月には地権者34人が組合員となり農事組合法人「日光農産」が設立された。

この日光農産は、生姜生産組合を引き継いで、しょうがの生産、販売事業のほか、集落の住民が共同で農作物を生産する集落営農という方法で、水稻を15ha、大豆を40a生産している。

なお、しょうがの作付面積は50aであり、約8tの収穫が出来る。しょうがの栽培

しょうがは400年の伝統をまもる
この地区は鳥取県東部の海岸に近い鳥取市気高町日光にある。

土壌は灰色低地土で、灰褐色の砂壤土～壤土質地帯であり、低地ではグライ土もある。

400年前に導入されたしょうがが、長い時代を経て、消滅の危機を乗り越えて現在また復活し、さらに振興されようとしている。集落をあげて、集落営農により共同で特産物を育てている。

は化学農薬や化学肥料を従来の半分に削減して、鳥取県の特別栽培農産物に登録されている。また、除草剤は一切使用していないため、草取りに多くの労力を要している。夏場の除草が過酷だと言われる。

(3) 「生姜穴」保存で高品質化

しょうがは、適度な温度と湿度の中で熟成させることにより、余分の水分が抜け、コクと辛みが増すという。日光集落では、先祖代々受け継がれた横穴である「生姜穴」で収穫したしょうがを保存熟成させている。最大奥行きが23mのものがある。

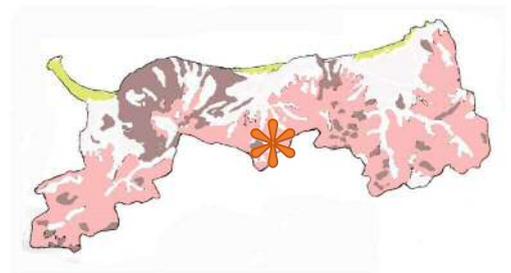
横穴の中は気温が15℃となり、年中保存ができて、いつでも出荷できる。



写真提供: 鳥取市広報課

(4) しょうがの収穫体験

平成24年11月、日光生姜を一般にPRするため、「鳥取日光生姜大収穫祭」を実施。「日光生姜弁当」が大好評をえてその後、市などが主催する各種イベントでもPRを兼ねて販売している。平成25年には「生姜スープ」「生姜ラーメン」など新しい味も開発し好評を得ている。



【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	観	○	◎	◎
			☆				

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

大黒新田(三朝)地域

【主要作目】
・三朝神倉大豆

【所在地】東伯郡三朝町
【連絡先】三朝町農業委員会
Tel.0858-43-3507
(又は鳥取県農業会議)



写真提供: 三朝町農業委員会

脚光をあびる特産品大豆「三朝神倉」
三朝町は県中部の天神川の上流に位置する自然豊かな町で、三朝温泉をはじめ、三徳山、小鹿溪などの観光資源も豊富である。河川沿いにある水田は、灰色低地土で灰褐色の壤土から砂質土が多い。
三朝「大黒新田」は西小鹿集落内にあり、江戸時代に山腹用水路が設置されて開発された水田である。
また、同町神倉で古くから栽培され大切に守ってきた大豆は「三朝神倉」と名付けられ、豆腐、納豆、豆乳の3つの加工品は「神シリーズ」として県内外で人気を呼んでいる。

(1) 大黒新田の開発の歴史

もともと農地が少なかったが、青木市兵衛が大変な苦勞をして用水を通して「大黒新田」を作り上げ、当集落を豊かな村にした。

この地には大黒さんの石像が祭られており、村人は毎年この功績を讃え大黒さんまつりを行っている。

難工事を経て完成した山腹水路はほ場整備された今でも残存している。

(2) 伝統ある「三朝神倉」

鳥取県農業試験場が平成12年から4年にわたり、県内の在来大豆を集めて品種特性を調査。この結果、神倉集落の大豆にはイソフラボンの含有量が通常の大豆の1.8倍もあることが分かった。イソフラボンは骨粗しょう症や更年期障害、美容などに効果があるといわれている。

またこの大豆は、甘みがあり、やわらかくて美味しい。この貴重な地大豆は、平成23年に「三朝神倉」として品種登録された。

(3) 「三朝神倉」の栽培への取り組み

平成20年に三朝町内の農家17人によりJ A鳥取中央三朝神倉大豆生産部を設立し、「三朝神倉」の増産に着手した。

設立時に2.5haであった栽培は平成25年には11haまで増加し、生産者も19人となった。

(4) 「三朝神倉」の加工品は「神シリーズ」

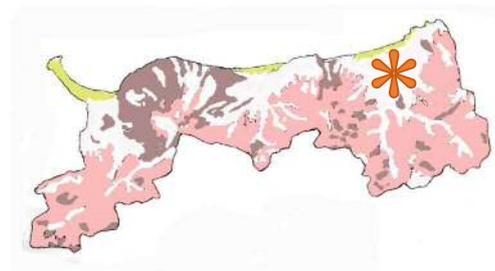
J A鳥取中央は平成21年に三朝大豆加工所をオープン。豆腐販売のほか、隣接する農家レストラン「^{よりみち}縁満」で豆腐料理が味わえる。

新商品の開発を県、町、商工会議所、J Aからなるプロジェクトチームを立ち上げ、平成24年以降、納豆「神のつぶ」、豆乳「神のしずく」豆腐「神のはな」の販売を始めた。この3つの加工品「神シリーズ」は県内外で人気を博している。



写真提供: J A鳥取中央

とっとい登録伝統農地 | -4-⑤
(V-⑫)



【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	観	◎	◎	☆
			☆		◎	◎	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

大井手用水流域

【主要作目】
・水稲

【所在地】鳥取市
【連絡先】鳥取市農業委員会
Tel.0857-20-3391
(又は鳥取県農業会議)



写真提供: 鳥取市農業委員会

(1) 亀井さんの大井手

鹿野城主の亀井茲矩は、関ヶ原の合戦の功績として、当時の高草郡を拝領した。亀井公は慶長7年(1602年)に大井手用水の開削に着手し、完成に7年の歳月を要した。大井手用水は、鳥取市河原町曳田から鳥取市賀露まで延長16kmあり、受益面積は674haと広く、同用水の恩恵を受けてきた地域住民は、「亀井さんの大井手」と親しみをもって呼んでいる。



写真提供: 鳥取市農業委員会

(2) 大井手用水関係施設等の改良

大正11年から昭和27年には有富川、野坂川、砂見川のサイホンが次々と完成した。

昭和33年から昭和37年には、大井手用水堰(河原頭首工)が総工費2億円で旧地点より300m上流に新設する大工事が行われ、取水量が飛躍的に増加した。

昭和39年から昭和49年には大井手用水の受益地である水田地帯において、全面的

県内最大級の用水路

大井手用水は県東部の千代川左岸一帯の水田を潤す県内最大級の用水路である。受益面積は618haあり、県東部の穀倉地帯となっている。

水田土壌は灰色低地土で、埴壤土で灰色～灰褐色が主であり、千代川沿いに砂壤土も一部ある。

現在は県営ほ場整備により多くの水田が整備され、主要作物は水稲で、転作大豆等も栽培されている。

に県営のほ場整備事業が実施された。1筆が30a区画のほ場が整備され、トラクター等による省力稲作経営が実現可能となった。

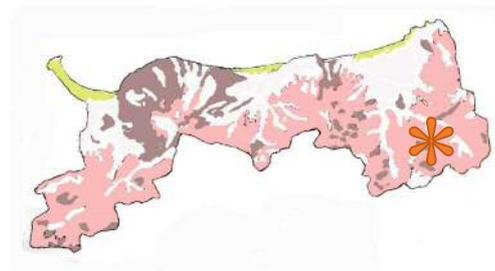
(3) 大井手用水は環境教育の場

大井手用水は地域の大切な農業施設である。一般の人ばかりでなく、小学校の児童を対象とした教育の場として多くの取り組みがなされている。

- ① ホタル観賞会の開催: 親子での一般公募の参加者により、大井手川でホタル観賞会を開催している。
- ② ホタル放流会の開催: 小学生を対象とし、成虫のホタルを産卵させ、幼虫を育てて大井手川に放流する。
- ③ 大井手探検隊実施: 小学生を対象とし、バスで移動しながら大井手用水等の農業施設を巡り学習する。

(4) 全国疏水百選に選ばれる

大井手用水は平成18年、農林水産省により日本の農業を支えてきた代表的な用水として疏水百選に選定された。鳥取県からは唯一、県東部の大井手用水のみが選定された。



【登録部門(価値評価)】

安藤井手流域

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	観	◎	◎	☆
			☆		◎	◎	☆

【主要作目】
・ 水稲

【所在地】 八頭郡八頭町
【連絡先】 八頭町農業委員会
Tel.0858-76-0207
(又は鳥取県農業会議)

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)



写真提供: 八頭町農業委員会

郷土の偉人による安藤井手

県東部の八頭町郡家地区は丘陵地にあるので江戸時代には畑が多く、粟や豆などの雑穀しか出来なかった。

この水不足の地区に豪農の安藤伊右衛門が私財を投じて用水路を完成させ、28haの水田を開田し、郡家地区275haの水田を潤すことができた。この用水路は安藤井手と称されている。

この地区の土壌は灰色低地土で、灰色の埴壤土～灰褐色の壤土である。

(1) 安藤伊右衛門による井手施工

江戸時代末期、八頭町郡家集落一帯は高台にあるため、毎年のように水不足に苦しんだ。郡家在住の豪農、安藤伊右衛門は用水路開削の申請を藩に出していたところ、工事費用を自弁することで許可された。伊右衛門は自ら鋤や鎌を持って工事の陣頭指揮をした。

取水は八頭町安井宿の宮前から八東川の水を引き入れ、山越しに引くという遠大な計画であった。



写真提供: 八頭町農業委員会

(2) 難関の用水路工事

井手の施工で最も重要となったのは測量で、取水口南方の高平城跡に水準点を作り、伊右衛門自ら2mの竹竿の先に菅笠をつけて合図し、水路の山腹に昼は竹竿に布をつけ、夜は提灯をつけて並べ、高低を計測したと伝えられている。

井手の工事で最も難航したのが通り谷穴井手(トンネル)の掘削作業であった。

通り谷穴井手の岩盤は極めて固く、幅1.2m～1.8m、延長459mの水路を掘るのに3年の歳月を要した。この通り谷穴井手の完成後の文政6年(1823年)、3年にわたる安藤井手は全線が完成した。

(3) 安藤井手の概要

用水路は八頭町安井宮前から郡家、宮谷まで全長10.8kmあり、原野開墾新田12.4ha、畑地水田化15.22ha、その他井手の余り水により、郡家、宮谷、など275haの水田の水不足が解消された。

延べ労働者数は267,483人、また総経費は72,229両(約15億円)と言われる。

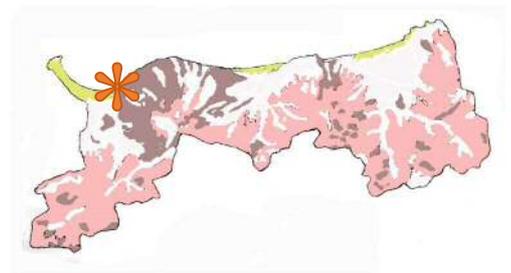
(4) 郷土の偉人となった安藤伊右衛門

3年にわたる大工事のため、安藤家は田畑の大半を売却し、借金の返済に充てた。

郷土を救った偉人を偲ぶために、郡家地区では9月の第4土曜日に安藤祭が開催されている。

屋台(御輿)の引き回しと住民の踊りは隔年に実施されており、安藤伊右衛門はまさに郷土の偉人として慕われている。

とっとい登録伝統農地 II-①



【登録部門（価値評価）】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土	3 褐色土	4 灰色土	◎	☆	☆	○
				◎	☆	○	◎

（評価指標：☆秀 ◎優 ○良）

日吉津チューリップ

【主要作目】
・景観作物
「チューリップ」

【所在地】西伯郡日吉津村

【連絡先】日吉津村建設産業課
TEL.0859-27-5953

（又は鳥取県農業会議）



写真提供：日吉津村農業委員会

小さな村で見つけた彩りの春

米子自動車道から境港へ向かう国道431号。皆生大橋手前の水田とカラフルな花の帯が目飛び込んでくる。それが日吉津村のチューリップ畑。かつては約10haで球根が生産され、チューリップの村と有名だったが、今は規模が減少したものの、村の後押しで様々な品種が栽培され、カラフルさを増し人気を得ている。

（1）立地条件生かした球根栽培

日吉津村は県西端部に位置し、東方に国立公園大山の雄姿を望み、北は日本海に面した日野川下流の砂質壤土地帯で球根栽培の適地。昭和37年に新潟県から10a分のチューリップ種子球を導入したのが始まりという。当時はすべて手作業でかなりの重労働。しかも種子球代が高く^{りびょう}罹病もみられ、1戸当たりの栽培面積は2～3a規模が限度であった。

（2）球根栽培不振でイベント専用に変換

昭和40年、オランダから種子球を輸入。土地の有効利用を図りながら栽培技術の向上、機械の共同利用体制、生産資材の共同購入、共同出荷体制が確立した。さらに昭和49年には集出荷施設、高能率作業管理機の導入を行い産地の定着化を図った。その後、ハウスによる半促成栽培で切り花生産も行われてきた。

近年では温暖化の影響もあり栽培面積が減少してきたが、村が支援に乗り出し、春の日吉津のチューリップマラソンにしっかりと色を添えている。

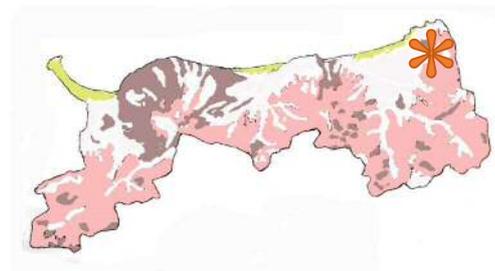
（3）昭和54年からチューリップマラソン大会

昭和54年に始まった同大会は平成26年で36回目。チューリップ満開の中で楽しく、愉快地に、誰でも気軽に参加できるマラソンで、参加者は畑からチューリップを持ち帰れる特典もあり人気を呼んでいる。



写真：日吉津村 HP より

とっとい登録伝統農地 II-② (III-②・V-14)



【登録部門(価値評価)】

横尾棚田団地

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤土	3 褐色土	4 灰色土	☆	☆	◎	☆

【主要作目】
・ 水稲

【所在地】 岩美郡岩美町
【連絡先】 岩美町農業委員会
☎0857-73-1586
(又は鳥取県農業会議)

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)



写真提供: 岩美町農業委員会

日本の棚田百選に選ばれる

岩美町横尾地区は、町の南東に位置し、車の通行もほとんどない田園風景の広がる地域で、山林に囲まれた標高 230m に勾配の緩やかな棚田が広がる。江戸中期に開墾された耕作地は 3 集落 500 枚、25ha にも及び、ふるさとの原風景を思い起こさせる美しい風景は訪れる人々の心を和ませる。平成 11 年に棚田百選に認定された。

(1) ボランティア隊の助けで守る

高齢化、担い手不足により道水路の維持管理の集落共同作業が困難となり、耕作放棄地の発生により、周辺農地への悪影響や景観の悪化、さらには地滑り指定区域で災害の発生も多く、営農意欲の減退が懸念されていた。そこで集落は平成 10 年に棚田の保全組織(56 戸)を結成。平成 11 年には県から派遣された「棚田保全ボランティア隊」とともに、棚田を潤す山腹水路 2.2 km の清掃作業を実施。都市住民との交流を行いながら棚田の維持管理に努めている。



写真提供: 岩美町農業委員会

(2) 棚田オーナーを募集

岩美町では棚田保全活動の一環として、「棚田オーナー制度」を導入。募集するのは「田んぼ」30 区画と「畑」が 5 区画。1 区画は約 1 a。毎年 3 月下旬が締め切り。「田んぼオーナー」の条件は農作業体験が目的で棚田保全に協力できる人。収穫した米や餅などを送ってもらえる特典がある。農作業は 4 月、7 月の水路清掃、5 月の田植え、9 月の稲刈りで、11 月には収穫祭が開催される。年会費は 1 区画 3 万円。



写真: 岩美町 HP より

「畑オーナー」は販売目的以外の栽培で、1 年間農地の草取り、水やりなど管理できる人が条件。1 オーナーにつき 1 区画の募集で年会費は無料となっている。

とっとい登録伝統農地Ⅱ-③

(Ⅲ-③・V-15)

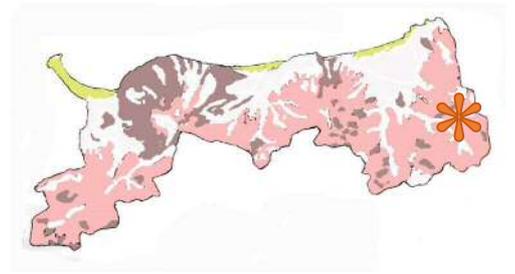
【登録部門(価値評価)】

Ⅰ生産振興				Ⅱ景観	Ⅲ生態・環境	Ⅳ教育・福祉	Ⅴ歴史・文化
1砂丘土	2黒赤ク土	3褐色土	4灰色土	☆	☆	◎	☆

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

つく米棚田団地

【主要作目】
・水稲



【所在地】八頭郡若桜町

【連絡先】若桜町産業観光課

TEL0858-82-2238

(又は若桜町農業委員会、鳥取県農業会議)



写真提供：若桜町農業委員会

氷ノ山山麓にある石積み棚田

国定公園、氷ノ山(標高 1,510m)の山麓約 800m の山地斜面を開墾した 100 枚 4.4ha の美しい石積み棚田は「わかさつくよね棚田」とよばれ、氷ノ山を訪れる人々の心をなごませる。

この棚田は先人たちが何代にもわたり労苦して下流の溪谷から運びあげた雑石を積み上げて作られ、一度崩壊すれば決して復元できないような見事な石積み土羽畦畔でできている。

(1) 「つく米」のいわれ

つく米とは珍しい地名で、「こめをたたく」ことである。むかし弘法大師がこの山麓を訪れたとき、村人が米を搗いていたが、米を惜しみ稗をつまんで渡した。大師はこれを怒り、山を越えながら稗を捨ててしまった。ここから「ヒエの山」となった。この棚田からできる米がいかに貴重なものであったかが偲ばれる逸話である。

(2) 厳しい営農環境のもとでの耕作放棄地の増加

昭和 40 年に 73 戸あったつく米集落の農家は、平成 11 年には 18 戸に減少。1 戸当たり 8 枚 28a ほどの棚田で、10a 当たり米 3.5 俵の厳しい生産環境のなかで高齢化、担い手不足が急速に進み、山腹水路の維持管理が困難になり、耕作放棄地も増加し、集落の棚田農業は崩壊の危機を迎えていた。

(3) ボランティアによる棚田保全活動と氷ノ山ふれあいの里

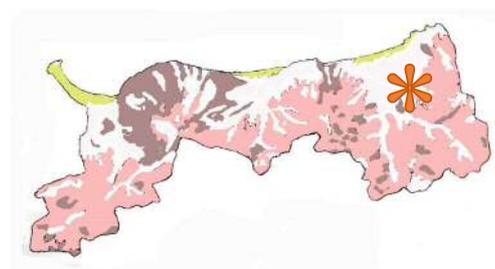
このような中平成 10 年度から「棚田保全ボランティア隊」が結成され、耕作放棄地を水田に復元したり景観作物(ひまわり、コスモス、ラベンダー等)を植えて美しい棚田を復活させる取り組みが集落との共同活動として始められた。

氷ノ山山麓では、優れた自然景観を活用してスキー場、キャンプ場、高原の宿氷太くん、自然ふれあい館響の森などの自然体験施設が整備され、四季を通じ多くの人々が訪れ、都市住民との交流による集落活性化が進められている。



写真提供：若桜町農業委員会

とっとい登録伝統農地Ⅱ-④ (Ⅲ-④)



【登録部門(価値評価)】

Ⅰ 生産振興				Ⅱ 景観	Ⅲ 生態・環境	Ⅳ 教育・福祉	Ⅴ 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土				
			◎	☆	☆	○	◎

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

上地(わじ)棚田 団地

【主要作目】
・水稲

【所在地】鳥取市国府町
【連絡先】鳥取市農業委員会
Tel.0857-20-3391
(又は鳥取県農業会議)



写真提供：県広報連絡協議会

実行委員会を設立し棚田の保全

鳥取市の東南に位置し、中国山系扇ノ山に連なる標高 300~600m の上地地区に棚田が広がっている。

農業従事者の減少に伴い棚田と用水路の維持が困難になり、耕作放棄地が増加していたが、平成 12 年に地元有志により実行委員会が立ち上げられ、ボランティアとともに棚田と水路の保全に努めている。

(1) 上地(わじ)の由来

標高 1,310m の扇ノ山登山口にあたる高原の村は地域の上であることから「上(うえ)の地(ち)」、これが「うえち」になり、音の変化や省略によって「うわぢ」さらに「わぢ」、「わじ」になったとする説や、新田村として下上地が誕生して上地鉾山の採掘が行われていたことから、近隣の山間部に比べ肥沃な土地であることを表し、「上等な土地」から上地の村名が生まれたとする説などがある。

(2) 外部の力で棚田と水路を維持

江戸時代末期に作られた京ヶ原用水路(4km)は農家の減少と高齢化のため維持が困難になり、棚田は耕作放棄地が増加していた。

この水路と棚田を守るため、平成 12 年に「プロジェクト京ヶ原」が設立された。このプロジェクトは鳥取大学の学生などの棚田ボランティアが用水路の保全・維持作業を行っている。このボランティア活動のおかげで美しい水田が守られている。

(3) 特産品で棚田の保全活動を支援

地元農家は棚田で酒米「五百万石」を栽培し、酒造会社が銘酒「京ヶ原」を製造販売している。この地酒は、新たな特産品となるとともに、販売の収益の一部が水路と棚田の保全活動に充当されている。

(4) 消費者グループのボランティア

上地集落では平成 20 年から「菜の花プロジェクト」として遊休農地に菜の花を植えている。種まきや収穫作業は消費者グループがボランティアで行っている。

参加者は年々増加しており、遊休農地の解消や地域の活性化につながっている。



写真提供：鳥取ふるさと UI(友愛)会より

とっとい登録伝統農地Ⅱ-⑤ (Ⅲ-⑤)

【登録部門(価値評価)】

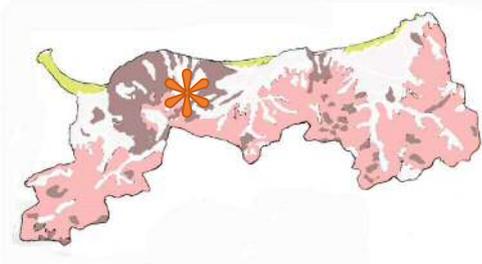
Ⅰ 生産振興				Ⅱ 景観	Ⅲ 生態・環境	Ⅳ 教育・福祉	Ⅴ 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	☆	☆	◎	◎

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

赤松の池、 伝説と景観

【主要作目】

- ・ 水稲
- ・ 大豆



【所在地】西伯郡大山町

【連絡先】大山町農業委員会
Tel.0858-58-6115

(又は鳥取県農業会議)



写真提供：大山町農業委員会

(1) 堤防の改修と増築

下流の水田面積が増えたことと、堤防から漏れ出す水の量が増えたことから昭和18年、堤防を高くする工事が行われた。赤土を締め固める工法が用いられ、池の東側にある鍋山から赤土を採取し、トロッコで運搬して昔ながらのたたき石で突き固められた。そのため多くの人々の力を必要とし、近隣在郷から大勢の人が工事にたずさわり、毎日、トロッコのきしむ音や赤土を突き固めるときに歌う歌、地面をたたく地響きの音が入り交じり、池の水面をゆすつたと伝えられている。

その結果、堤防の高さ 5.5m、その長さ 130m、貯水量 40 万 m³ となり、受益面積は 34ha となった。

現在の受益面積は 39ha とさらに増え、水稲、大豆、そばが作付けされている。

(2) 赤松池にまつわる伝説「お初伝説」

この池にまつわる伝説は数多くある。中でも「お初伝説」ゆかりの地として近隣住民に親しまれ、今も池には「お初」を祭る祠がある。伝説の大筋は次のとおり。

自然のくぼ地を活かしたため池

この池は自然に発生したくぼ地の水たまりに堤防を築いたもので、江戸時代の1680年頃に築造されたといわれている。

以来数回の改修を経ながら長年利用されており、いまだに干上がったことがないといわれている。

池の成り立ちから神話がかっており、お初伝説など言い伝えが多い。近年土手に桜が植樹されて数が増え、隠れた桜スポットとして脚光を浴びている。

松江藩の家老松浦頼母には子供がなかったため、赤松池大明神にお参りしたところ、女の子を授かりお初と命名して大切に育てた。藩主に妻にと要望されたとき、お初は赤松池大明神にお礼参りをし、赤松池に姿を消した。再び現れたお初は池に住む大蛇の化身であると告げ、育ててくれたお礼として自分に祈りを捧げる人には幸福を与えましようと言いつつ池に沈み、二度と姿を現さなかった。



写真提供：大山町農業委員会

(3) 近年はレジャーの穴場

堤防の桜並木は近年植樹によってその数が増え、穴場の桜スポットとして観光名所になっている。特に桜の開花時期は、周囲の山々の緑、池の水面と大山を合わせた景色は絶景といわれている。

平成15年にはカヌーの艇庫が整備され、課外授業や親子カヌー教室など、レジャー利用も盛んになっている。

【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	◎	☆	◎	◎

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

日光冬水たんぼ

【主要作目】
・水稲



【所在地】鳥取市気高町
 【連絡先】鳥取市農業委員会
 ☎0857-20-3391
 (又は鳥取県農業会議)



写真提供：鳥取市広報課

(1) 亀井公のおかげ

日光冠水田は江戸時代初期に鹿野城主亀井茲矩が池を干拓して水田開発を行った。そして亀井公は朱印船貿易で東南アジアからしょうがを持ち帰って栽培させたのがこの地区の特産物である「日光生姜」の始まりと言われ、400年以上の歴史がある。

昭和59年から平成4年にかけてほ場整備が行われ、約32haが立派な水田に再整備されたのを契機に、平成23年には日光集落の水田地権者34人によって「農事組合法人日光農産」が立ち上げられ、集落の住民共同での集落営農により米、ねぎ、大豆を生産している。

(2) 土地改良部局の所管するめずらしい海岸

冠水田での稲作には排水対策が不可欠であり、作付期間中は池の水を日本海まで汲み出して干し上げし、そのために排水路や排水ポンプ等の整備が必要である。冬期は日本海からの強い季節風で砂が堆積し河口閉塞を起こすことから絶えず海岸に排水河口を確保しておかなくてはならずこの維持管理作業は大変である。この2つの潟湖から注ぐ海岸線にはこのための海岸保全施設が設置され、土地改良部局が所管する極めて珍しい海岸として3箇所、計246mが指定されている。

せきこ 潟湖からうまれた農地

浜村温泉の東には日光池と水尻(みずしり)池がある。この二つの池は元々日本海につながる潟湖であり、夏季にはポンプで池の水を排水して稲作を行い、秋の稲刈り後には水がたまって池のようになっている。水深が浅いのでカモやコハクチョウなどの絶好の越冬地でもある。

(3) むらおこしに「しょうが」

しょうがは体の免疫力を高め風邪を予防したり、冷え性を改善したりするなど健康食材として近年注目されている。日光集落では、先祖代々受け継がれる「生姜穴」でしょうがを熟成保管する。山の斜面をくり抜いた洞状の坑道のようなもので、奥行きが20m以上あるものもある。穴の途中はアリの巣のように横穴が枝分かれし、それぞれの場所で新生姜、囲い生姜、種生姜としてミルフィーユ状に積み重ねて年中保存され、年間を通じて出荷される。近頃はしょうがは酢漬け、佃煮、コンフィチュール(ジャム)などに地元加工もされ、むらおこしの元気のみなもととなっている。



写真提供：鳥取市広報課

(4) もうひとつの水尻池

日光池はほ場整備されて優良農地となったが、もう一つの水尻池は減反・水田転作の政策転換の中で稲作をやめて池を活用した淡水真珠の養殖が始められたが、現在は事業中止され、一年中が「池」の状態の水鳥たちの楽園となっている。神話の白兔海岸にも近く、西因幡県立自然公園の一部に指定されていて、池の周辺は絶好の探鳥スポットである。

とっとい登録伝統農地Ⅳ-①

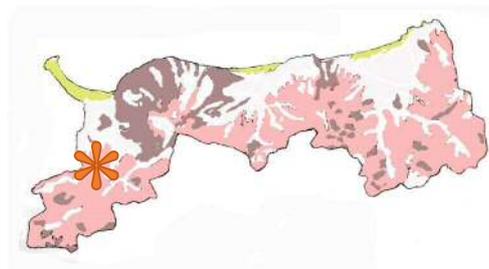
【登録部門(価値評価)】

Ⅰ 生産振興				Ⅱ 景観	Ⅲ 生態・環境	Ⅳ 教育・福祉	Ⅴ 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒土ク土	3 褐色土	4 灰色土	観	境	祉	化
	◎			○	○	☆	◎

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

丸山地区ふれあい交流田

【主要作目】
・水稲



【所在地】西伯郡伯耆町

【連絡先】伯耆町農業委員会

TEL.0859-62-0715

(又は鳥取県農業会議)



写真：伯耆町 HP より

(1) おいしい米づくりにトライ!

既に 20 回目を超えるこの取り組み、米子田植え唄保存会の田植え唄に合わせて、200 人ほどの参加者たちが、昔ながらの田植えに挑戦している。参加者たちは大山ふもと特有の真っ黒な「黒土(クロボク)」に少しとまどいながらも、植え終わる頃には手つきも慣れ、自分たちで手植えした田んぼを見て誇らしそう。中には泥んこになって土いじりをするちびっ子たちの姿も…。田植えの後は、地元の婦人会の方が作った大山おこわやアイスクリームなどをいただき、秋の豊作を願いながら疲れを癒やす。

(2) 八郷米とは

この地の守り神「大蛇」が自らの命と引き替えに一夜で作り上げたという大原千町の井手(用水路)を利用して栽培されるのが、有機質肥料を活用し、農薬の使用を削減した「八郷米」。

米フェスタ開催 20 年間続く

伯耆町丸山地区で収穫される「八郷米」は、県内でも屈指のおいしさを誇るブランド米として有名。

この地区の水田(八郷地区・大原千町)では毎年、農業・お米作りへの理解を深め、消費者と生産者の交流を促進するための「米フェスタ・おいしい米づくりにトライ!」を皮切りに、田植えから稲刈り、収穫祭まで様々なイベントが開催されている。(同実行委員会、JA鳥取県中央会、新日本海新聞社主催)

大山の清らかな伏流水で育つお米は粒が立ち、甘みも二重丸。地元では絶大なる人気を誇るブランド米として食卓には欠かせない逸品となっている。

(3) 米生郷祭 秋の大収穫祭

秋には「米生郷祭」として収穫を祝い、“こめ”の役割を再認識するとともに、地元の農産物や加工品を市民に向けPRする。

当日は米を中心とした地元農産物や加工品などを即売する軽トラ物産市や、新米抽選会、おにぎりのプレゼント、餅つき、さんだわら投げゲームなど、盛りだくさんのイベントが開催されている。



写真提供：伯耆町農業委員会

とっぴ登録伝統農地Ⅳ-②

【登録部門(価値評価)】

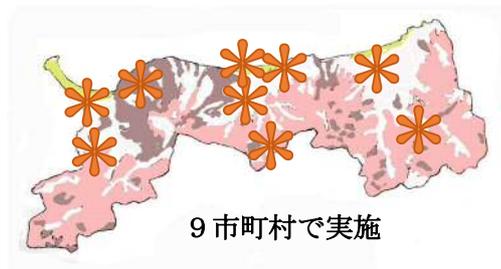
Ⅰ生産振興				Ⅱ景観	Ⅲ生態・環境	Ⅳ教育・福祉	Ⅴ歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	○	○	☆	◎

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

市民(健康)農園

【主要作目】

- ・自家用野菜
- ・花き



9市町村で実施

【所在地】県全域

【連絡先】各市町村農業委員会

(又は鳥取県農業会議)



写真提供：鳥取市農業委員会

健康的でゆとりある生活の場

都市においては人口の過密化、緑の減少、庭のない世帯の増大などが進行してきた一方で、「物の豊かさ」よりも「うるおい」や「生きがい」といった「心の豊かさ」を重視するという価値観やライフスタイルを志向するという変化が生じている。これに 대응するため、市民農園といった名前で暮らしの中に定着している。今後も市民農園に対する関心は高く、期待は大きいものがある。

(1) 市民農園の解説

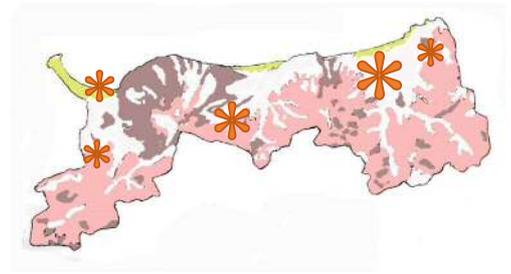
「特定農地貸付けに関する農地法等の特例に関する法律」(特定農地貸付法)が平成17年の改正により市町村やJAだけでなく農家等が、一般市民に農地の貸付けができる制度。

(2) 市民農園法の解説

市民農園整備促進法(平成2年)に基づいて農業委員会の決定を経て市町村が指定した「市民農園区域」内の農地について一般市民が利用できる制度。

市町村	農園数	面積(a)	入園者数	備考
鳥取市	11	379.5	565	叶、湖山、里仁、滝山、祢宜谷、布勢、吉岡、米里、松保、宮下、西郷
米子市	2	34	112	日原、夜見
倉吉市	6	22	47	倉吉(4農園)、関金(2農園)
八頭町	1	24.7	43	稲荷
湯梨浜町	2	46	40	泊(1農園-15区画)、羽合(1農園-40区画)
三朝町	1	15.3	33	三朝(恋谷)
北栄町	2	25	20	北条1、大栄1
南部町	4	40.5	52	西伯(2)、千間山(2)
日吉津村	2	36	61	日吉津(2ヶ所)

とっとい登録伝統農地Ⅳ-③



【登録部門(価値評価)】

Ⅰ生産振興				Ⅱ景観	Ⅲ生態・環境	Ⅳ教育・福祉	Ⅴ歴史・文化
1砂丘土	2黒赤ク土	3褐色土	4灰色土				
			○	○	☆	◎	

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

学童農園

【主要作目】

- ・ 水稲
- ・ 野菜

【所在地】 県全域
 【連絡先】 鳥取県農業会議
 ☎0857-26-8371

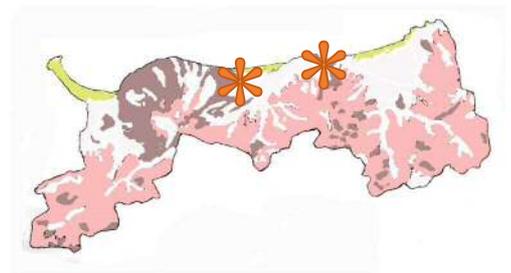


写真：伯耆町HPより

いのちと食と農を結ぶ

農園での農業体験活動を通して、生命尊重、食物を大切に育てる態度を育てる。学校と地域社会とが連携して農家や農業指導者を講師に招き、米作りや野菜など、四季を通じて観察、農作業を体験して学ぶ。

市町村	学校等数	面積(作目)	学校名等
鳥取市	20	水稲(合計 120.5a)	遷喬・賀露・倉田・神戸・大正・明治・湖山・湖南学園・米里・津ノ井・美保南・湖山西・中ノ郷・若葉台・西郷・宝木・瑞穂・浜村・逢坂・鹿野
倉吉市	8	水稲	上北条・西郷・社・灘手・小鴨・上小鴨・山守 J A鳥取中央(あぐりキッズスクール)
岩美町	2	水稲・さつまいも・なし・らっきよ	岩美西・岩美南
伯耆町	1	水稲	丸山地区ふれあい交流田
日吉津村	1	野菜(4a)	日吉津



【登録部門(価値評価)】

Ⅰ生産振興				Ⅱ景観	Ⅲ生態・環境	Ⅳ教育・福祉	Ⅴ歴史・文化
1砂丘土	2黒赤ク土	3褐色土	4灰色土				
			○	○	☆	○	

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

福祉農園

【主要作目】

- ・野菜類
- ・花き類

【所在地】 県全域
 【連絡先】 鳥取県農業会議
 TEL.0857-26-8371



写真提供：ゆりはま大平園

土を耕し、緑と花が人の心癒す

福祉農園は園芸などを手段として心身の機能を改善する「癒し系の農地利用」である。その目的は、多くの収穫を得ることではなく、野菜や花を育てることによって人々の心を和ませ、安らぎや快感、活力、生気を与えたり、人と人とのふれあいを創り出し、損なわれた機能を回復する。心や体の健康や生活の質の改善のために、近くで便利な農地が農家と管理連携しながら積極的に活用されている。

(1) ケアハウスみどり園

従来の弱者救済型の福祉ではなく、健康や生きがい、働き甲斐の創出、自信や誇りの保持する農業と福祉を結びつけた取り組みである。地域社会による相互扶助(共助)の責任を国家からコミュニティーに移し、公助の福祉効率を高めている。

J Aとうはく(現在のJ A鳥取中央)が、発起人となり開園。共同管理のほ場ではさつまいもなどを栽培、個人管理のほ場で収穫した野菜は、都会の子供に送っている。

(2) ゆりはま大平園

在宅での生活が困難な方が施設での生活を通じて、自立を目指した生活支援を行っている。その一つとして野菜等の栽培・販売に取り組んでいる。地域との交流行事に参加し、販売することにより就労や社会参加を支援している。

花・野菜苗の他、盆用の切り花を栽培出荷している。地域の祭りに積極的に参加し、祭りでの販売を通じて地域住民との交流や生活の自立につなげている

市町村	箇所数	施設の概要
湯梨浜町	1	ゆりはま大平園(花・野菜苗、切花の栽培・販売)
琴浦町	1	ケアハウスみどり園(野菜を栽培、個人管理できる区画もあり)

とっとり登録伝統農地V-①

【登録部門(価値評価)】

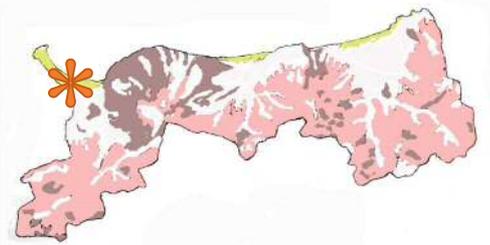
I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤土	3 褐色土	4 灰色土	◎	◎	◎	☆

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

米川用水流域農業

【主要作目】

- ・水稲
- ・白ねぎ



【所在地】米子市・境港市

【連絡先】米子市農業委員会

☎0859-23-5275

境港市農業委員会

☎0859-47-1053

(又は鳥取県農業会議)



写真提供：「とっとり井手・ため池100選」より
県農地・水保全課
左上 境港市農業委員会

(1) 米川用水開削の歴史

弓ヶ浜半島は、大昔、夜見の島という小島であった。日野川から流れてくるたたら製鉄の砂鉄採取残土などの砂粒が、美保湾の潮流と日本海の風によって次第に堆積し、今の半島を形作った。

江戸時代前期(1600年代後半)、財政難に陥った鳥取藩は、新田開発を奨励して収入の増加を図っていた。このような折、弓ヶ浜半島に用水路の開削を藩に献策したのが藩士・米村所平広次であった。

元禄13年(1700年)着工、翌年両三柳村までの工事を終えたが、藩の財政難による工事中断もあり、境水道まで開通させるのに60年を要した。

この用水は米村所平広次の功績をたたえ、姓の一字をとって米川と名付けられた。

(2) 米川用水の特徴とその副産物

特徴は、土手の左右樋口から最短距離で水を田畑に引くために、弓ヶ浜砂州の中央部に位置し、天井川としたことである。

副産物もいくつか生じた。その一つは、中海に流れ込む米川の流れを利用して砂丘を崩し、その砂を海に流すことで土地を

先進的な米川流域の農業

弓ヶ浜では、米川の開通による本格的な稲作が開始されると同時に、砂丘地に適し、その時代に似合った作物を積極的に導入し、普及させてきた歴史がある。(さつまいも、伯州綿、桑(養蚕)葉たばこ、白ねぎ等)

現在も、白ねぎ専業農家の中には、栽培面積10ha超の先進事例があり、これを手本に白ねぎ専業で新規に就農する者がある。

造成し新田化する「流し新田」が活発となったことで、耕地面積が増加したこと。

(3) 開削後の弓ヶ浜の農産物の変遷

かんがい可能地は水田となり、他は、麦、粟、さつまいも、伯州綿等の畑作物が栽培された。

さつまいもは、現在ではキュアリング処理後に貯蔵され、冬季に出荷できるよう工夫されている。

綿は江戸時代前期から栽培が始まり、弓ヶ浜一帯が大産地となり、境港から全国に出荷された。明治中ごろまで盛んに栽培されたが、明治29年の関税撤廃後の綿価格の低落で徐々に衰退していった。

綿に代わったのが養蚕であるが、昭和30年代以降、化学繊維の普及により衰退していった。

その後、砂丘地に適した作物として、葉たばこと白ねぎの栽培が盛んとなった。葉たばこは近年、減産措置、廃作奨励で栽培面積が減少している。

白ねぎについては、先人たちが品種、品質、栽培方法、販売等積極的に改良に取り組んできた成果が実り、弓ヶ浜は西日本を代表する産地となっている。

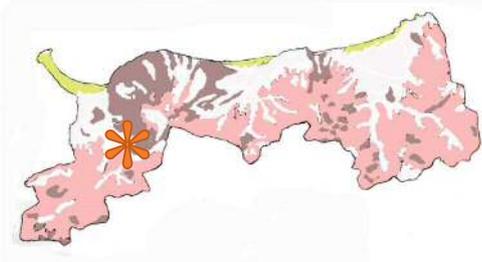
【登録部門(価値評価)】

I 生産振興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	観	○	◎	☆

(評価指標: ☆秀 ◎優 ○良)

金持神社と たたらの里

【主要作目】
・水稲



【所在地】日野郡日野町
 【連絡先】日野町農業委員会
 TEL.0859-72-2103
 (又は鳥取県農業会議)



写真: 日野町 HP より

ルーツはたたらの里

日野川上流域に位置する「奥日野」は、古来より「たたらの里」として知られており、百年前まで「たたら製鉄」が盛んで、その豊かな鉄イオンと森林の腐葉土が植物を活性化させ、長い時間をかけて豊かな土壌をもたらした。

たたら製鉄に由来する地名にちなんだ名前の金持神社は、近年縁起のよい名、金運の御利益で全国的に有名となり、参拝者も数多い。

(1) たたら製鉄の由来と地名

岡山県や広島県の県境に近い日野川上流域に位置する「奥日野」。約100年前まで、たたら製鉄が盛んに行われ、特に明治時代には奥出雲と並び、大量の鉄を生産して日本の近代化を支えてきた。

たたらとは、火勢強化に使用する足踏み式送風機の轆(ふいご)を意味したが、その後砂鉄を溶かす炉全体、次いで付属施設設備一切を総称するようになった。宮崎駿監督のアニメ映画「もののけ姫」がイメージする世界の基となった。

そのため奥日野地域には「鉄」や「砂鉄を吹く」の意をもつ「金」とか「福」の字がつく地名や神社等が数多く見られ、縁起のよい名、金運の御利益で人気の高い「金持神社」もたたら製鉄に起因している。

(2) 金持神社の由来と縁起物

出雲の神官の次男が伊勢神宮を参拝のためにこの地を通りかかったところ、お守りとして身につけていた神前の玉石が急に重くなり、宮造りの神夢もあって宮造りしたと伝えられている。

鎌倉幕府によって配流された後醍醐天皇が隠岐島から脱出した際、天皇を奉じて義兵をあげたこの地の豪族や金持景藤が金持神社で必勝祈願をしたと伝えられている。その名前にあやかった金運・開運の縁起物として奥日野地域で栽培されたお米をお祓いし、「金持米」が金持神社札所で販売されるようになった。

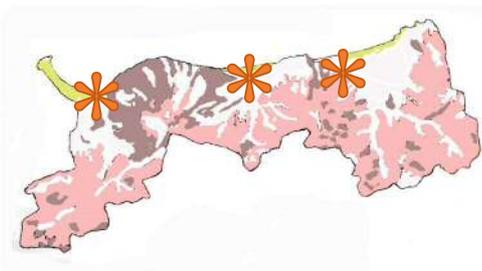
(3) たたらの里と奥日野の米

日野川支流の溪谷、標高250m~400mの間に点在するわずかな平地で、たたらに育まれた豊かな土壌、山麓から湧き出す清冽な水、夏季冷涼な気候、そして代々伝わる米作り技術が県内指折りの良質米産地を生み出した。

「ねうあぐり倶楽部」のメンバーの一人は、先人の技術を引き継ぎつつ特別栽培米に取り組み、平成24年に米・食味鑑定士協会が主催する米・食味鑑定コンクールで県内初の金賞を受賞した。



写真提供: ねうあぐり倶楽部



【登録部門(価値評価)】

I 生産新興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒赤ク土	3 褐色土	4 灰色土	◎	○	○	☆

(評価指標：☆秀 ◎優 ○良)

都市近郊農業地帯

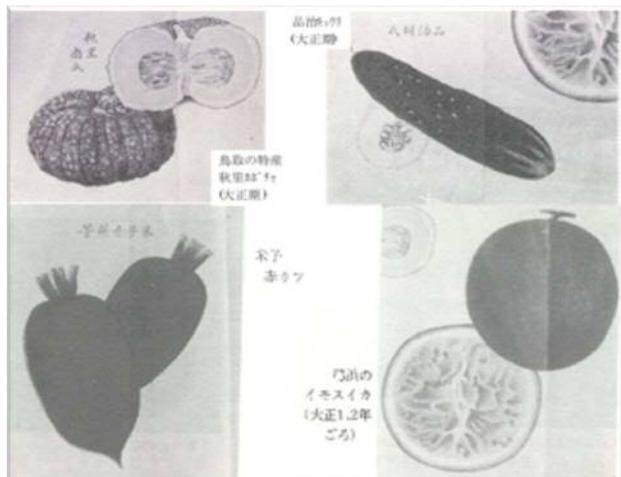
【主要作目】

- ・野菜
- ・花き

【所在地】鳥取市、倉吉市、米子市

【連絡先】鳥取県農業会議

TEL 0857-26-8371



写真：「鳥取県そ菜園芸発達史」より

(1) 鳥取市の発展と近郊農業

鳥取市の始まりは元亀4年から天正元年(1573年)、山名豊国が久松山の城のふもとに城下町をつくってからであるが、寛永12年(1635年)の池田光政、光仲のお国替えの頃から人口が増え、これにともなって近郊野菜も発展していった。

畑地が集団していたのは砂丘畑を除いては富桑地区のみで、この地区のうち行徳、品治が発祥地といってもよい。

青果物市場の設立年代は明らかでないが、元和4年(1618年)時の城主池田侯に請願して市場の許可を得たとされ、明治15年、鳥取県街路取締規則及び市場取締規則が發布されて規約に基づいた市場が設立された。

戦後、市民の食生活の向上と都市化の進展に伴って野菜の品目、面積ともに増加し、名実ともに都市近郊野菜地帯として発展した。

この地帯の野菜の主な在来種には、品治キュウリ、秋里カボチャ、カレギ(ねぎの苗の状態を刈り取るもので、再生後も2~3回繰り返す)、甘長トウガラシなどがあり、技術改良では夏まきほうれん草がある。

都市近郊は本県野菜園芸の発祥地

江戸時代から鳥取、倉吉、米子城下町の野菜供給地として栽培が始まり、本県野菜園芸の発祥地とされている。その後、都市人口の増加と交通の発達を背景に、行商的荷物集配人の手によって遠く兵庫県香住、岡山県津山まで販売されるようになり、県内の砂丘地帯、大山黒ボク地帯の主要産地へと発展した。

鳥取、倉吉、米子の人口(千人)

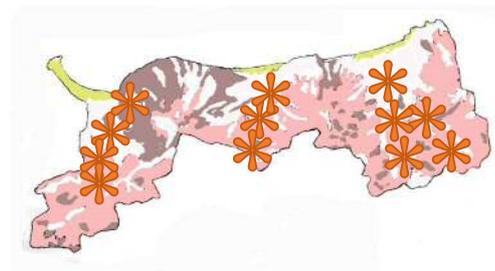
	明治2年	明治22年	明治43年	大正14年	昭和15年
鳥取市	35	28	36	35	49
倉吉市		7	10		
米子市	10	13	20	27	47

(2) 倉吉市の発展と近郊農業

倉吉市は天神川流域に発達した小都市で、城下町として徳川時代から明治初期までは打吹山ろく一帯に町家と武家屋敷があった。倉吉近郊の野菜地帯は稲作中心の副業的経営で、野菜に対する依存度も低かった。江戸時代における幕府の政策は重農主義のもと種々の施策や法制が施行され、中部一円に亘り耕地の拡張、水利の改良が盛んに行われ、今日に至った。

(3) 米子市の発展と近郊農業

米子市は慶長5年(1600年)、関が原の戦いの後松平氏十八万石の城下町として町づくりされた。近郊農業としてもっとも古くから野菜が栽培されたのは旧住吉村(旗ヶ崎、安倍、後藤の3地区)である。早くから農地開発が行われ、地下水位も高く、唯一の有機資源である海藻採集が容易であったことによる。作付けの特に多いものに赤カブがあり、注目されている。



【登録部門(価値評価)】

I 生産新興				II 景観	III 生態・環境	IV 教育・福祉	V 歴史・文化
1 砂丘土	2 黒ボク土	3 褐色土	4 灰色土	◎	○	○	☆

(評価指標： ☆秀 ◎優 ○良)

揚水水車が回る 田んぼ

【主要作目】
・水稲

【所在地】 県全域
【連絡先】 鳥取県農業会議
Tel. 0857-26-8371



写真：「備中の水車風土記」より

農事用水車は日本の農耕文化

農事用水車の最盛期は幕末から明治、大正、昭和初期にわたるおよそ100年間。田への揚水をはじめ、精米、製粉など幅広い業種に使用され、昭和17年(農林省調べ)には全国に約7万8千台稼働していたというから、鳥取県では約1千台前後はあったものと推定される。昭和30年代の技術革新やそれに続く基盤整備、米の転作政策を経て、昭和50年代には“揚水水車”は消滅した。

(1) 水車の由来と定義(からくり)

前近代の文化の多くが中国渡来であったように、水車も中国から朝鮮を経て伝えられたものである。

その技術は、水のもつエネルギーを機械的な仕事に変換する装置で、そのからくりは、祭りの山車(だし)のからくり人形に匹敵する。それは、水流を羽根にあてて、その反動によって羽根車を回転させながら、竹筒などで水を汲み上げて田へ送り込む装置のことである。

(2) 水車と美は水輪のくも手と「からみ」

水車の外観を美しくしているのは、水輪のくも手(軸から放射状に取り付けられた水受け側板)とからみ(水の汲み上げ装置)の形である。

この水輪が田園の風物と調和し、美しい風景となっている。その風景が遠景であれ、近景であっても、まず関心を持たれるのは水輪のくも手と「からみ」が美しく工夫されていることだったかもしれない。

水車についての俳句や短歌、童謡や歌謡曲などは数多く創作されている。

水車が回る
水玉が散る
屋根草が
貧乏ゆすりをしきりにしている
こんな風景も
母と並んでいると
ちがって見えてくるのです

水車が回る
秋が散る
どの屋根草も
秋風を呼びつづけている

水車が回る
サトウ
ハチロウ

(3) 水車から学び伝えること

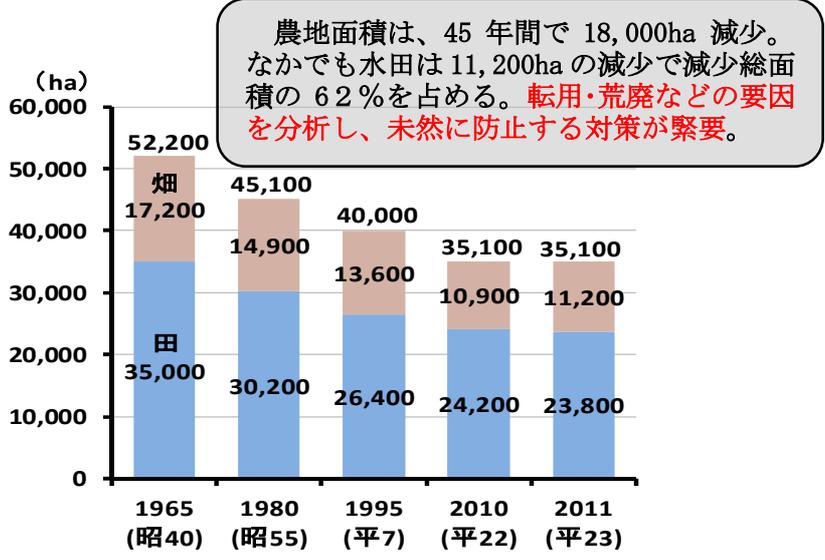
直径3m以下の小型の水車を広く分布させることを可能にしたのは、降雨量が多く、地形が水車を仕掛けるのに適していたからである。そのほか森林資源に恵まれ、水車を作るのに必要な木材が手軽に入手でき、木工技術の伝統に支えられたことも要因になっている。

こうしてみると水車は自然と人とを結ぶ「村の象徴」であり、バシャバシャと水の落ちる音は心から消えることはない。

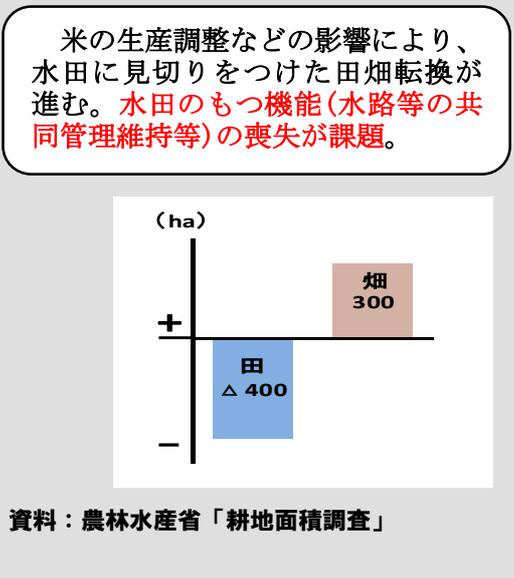
水車が人々に郷愁を感じさせるのには、それなりの理由があるのである。

【農地面積と整備の状況】(平成24年度農地白書 ダイジェスト(鳥取県)版より)

図1-1 農地(面積)の推移
 ~農地面積は減少の一途、歯止め策が重要~

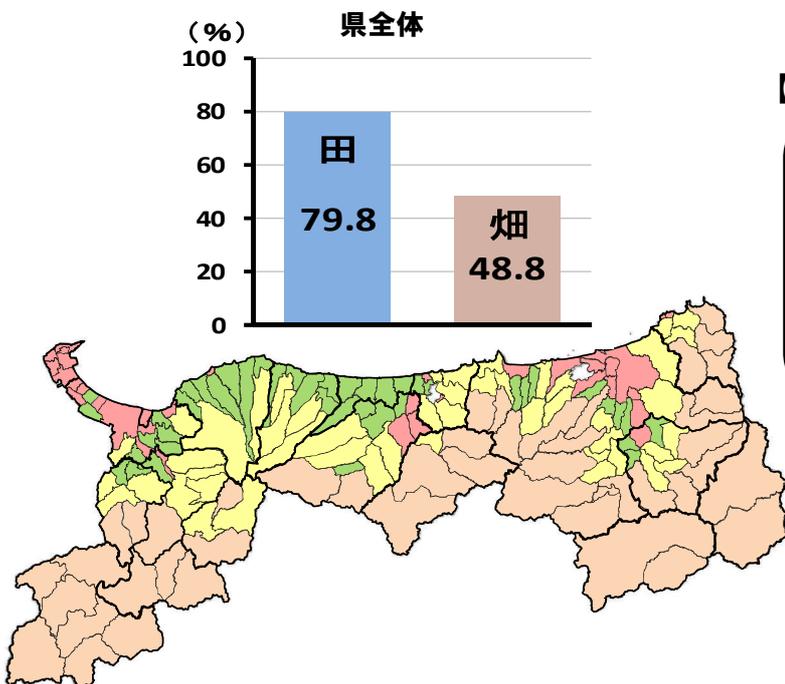


【平成23年の動向(平22比較)】
 図1-2 農地面積の変動
 ~田が減り、畑が増える~



資料：農林水産省「耕地面積調査」ラウンドで合計が一致しない場合がある

図2 農地整備の状況

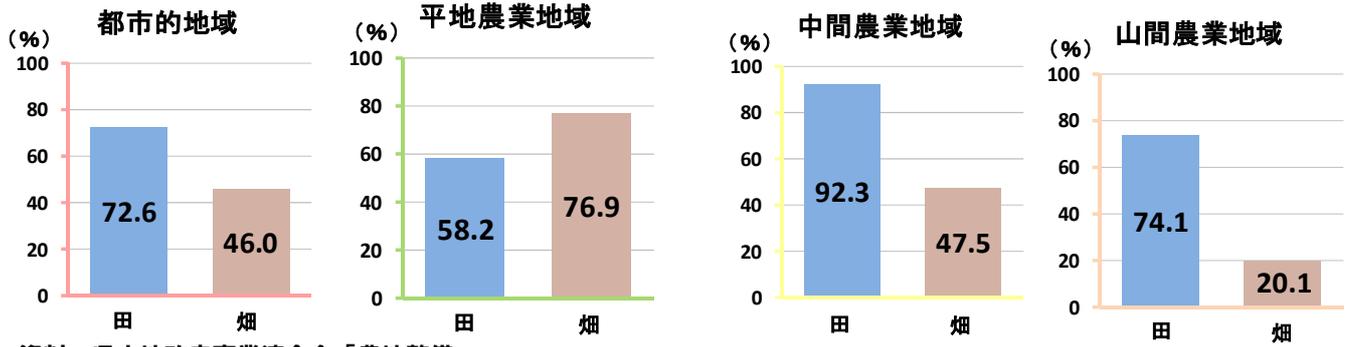


【県全体】~水田は全国的にも高い整備率~

農振農用地面積に対する区画整理が実施された面積の割合は、68.4%(H22)。田畑別では、水田は79.8%まで整備が進み、中国地方はもとより全国的にも高い整備率である。一方、基幹水利施設等の農業施設は老朽化。更新時期を迎え再整備が課題となる。

【地域別】~山間地の畑は立ち遅れ~

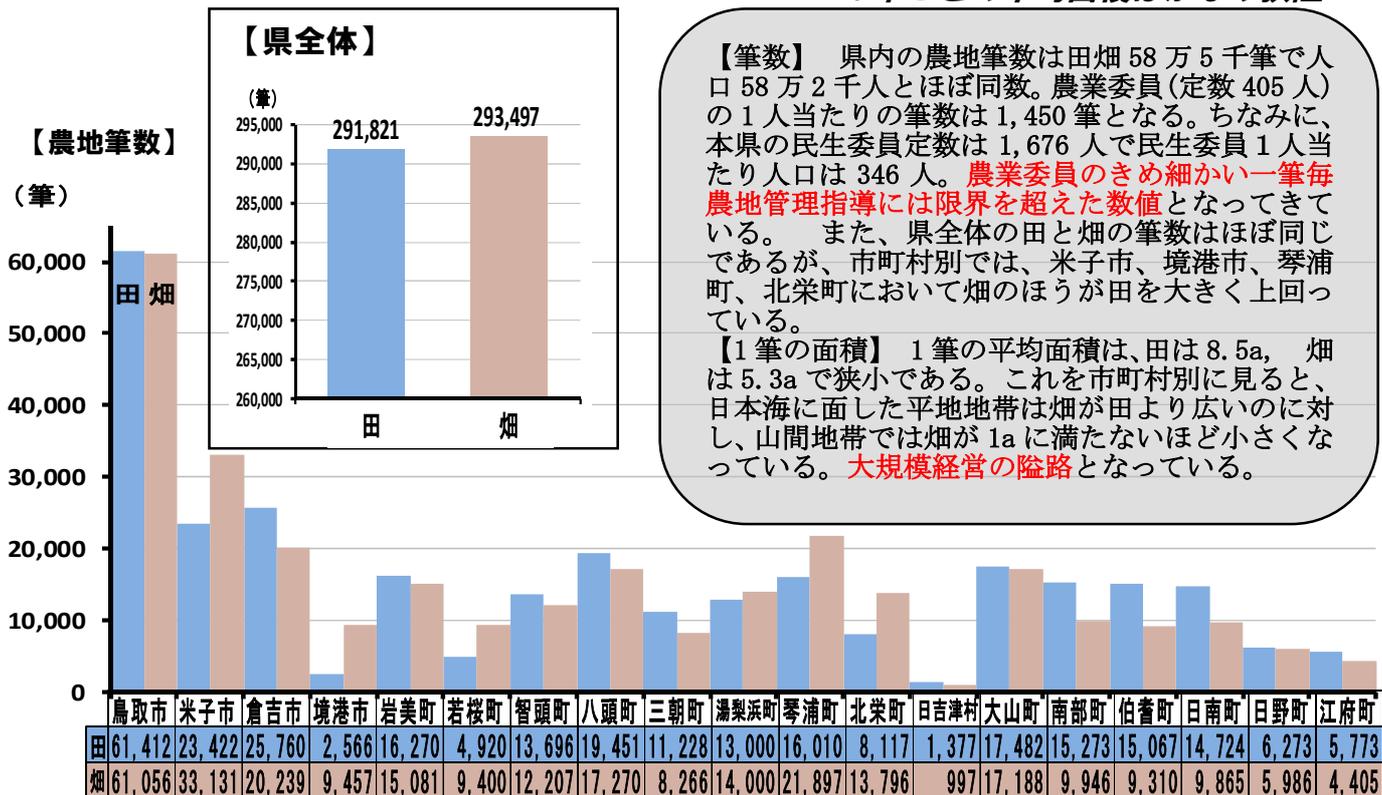
近年、重点的に整備が行なわれてきた中間農業地域の田が92.3%と県平均を上回っている。平地の畑76.9%の整備率も高く、園芸産地の基盤をなす。これに対し、山間農業地域の畑は20.1%と立ち遅れている。



資料：県土地改良事業連合会「農地整備」

図3 農地筆数及び1筆平均面積

～農地の筆数58万5千筆で人口数とほぼ同数。
1筆ごとの平均面積はかなり狭隘～



【筆数】 県内の農地筆数は田畑58万5千筆で人口58万2千人とほぼ同数。農業委員(定数405人)の1人当たりの筆数は1,450筆となる。ちなみに、本県の民生委員定数は1,676人で民生委員1人当たり人口は346人。農業委員のきめ細かい一筆毎農地管理指導には限界を超えた数値となってきた。また、県全体の田と畑の筆数はほぼ同じであるが、市町村別では、米子市、境港市、琴浦町、北栄町において畑のほうが田を大きく上回っている。

【1筆の面積】 1筆の平均面積は、田は8.5a、畑は5.3aで狭小である。これを市町村別に見ると、日本海に面した平地地帯は畑が田より広いのに対し、山間地帯では畑が1aに満たないほど小さくなっている。大規模経営の隘路となっている。

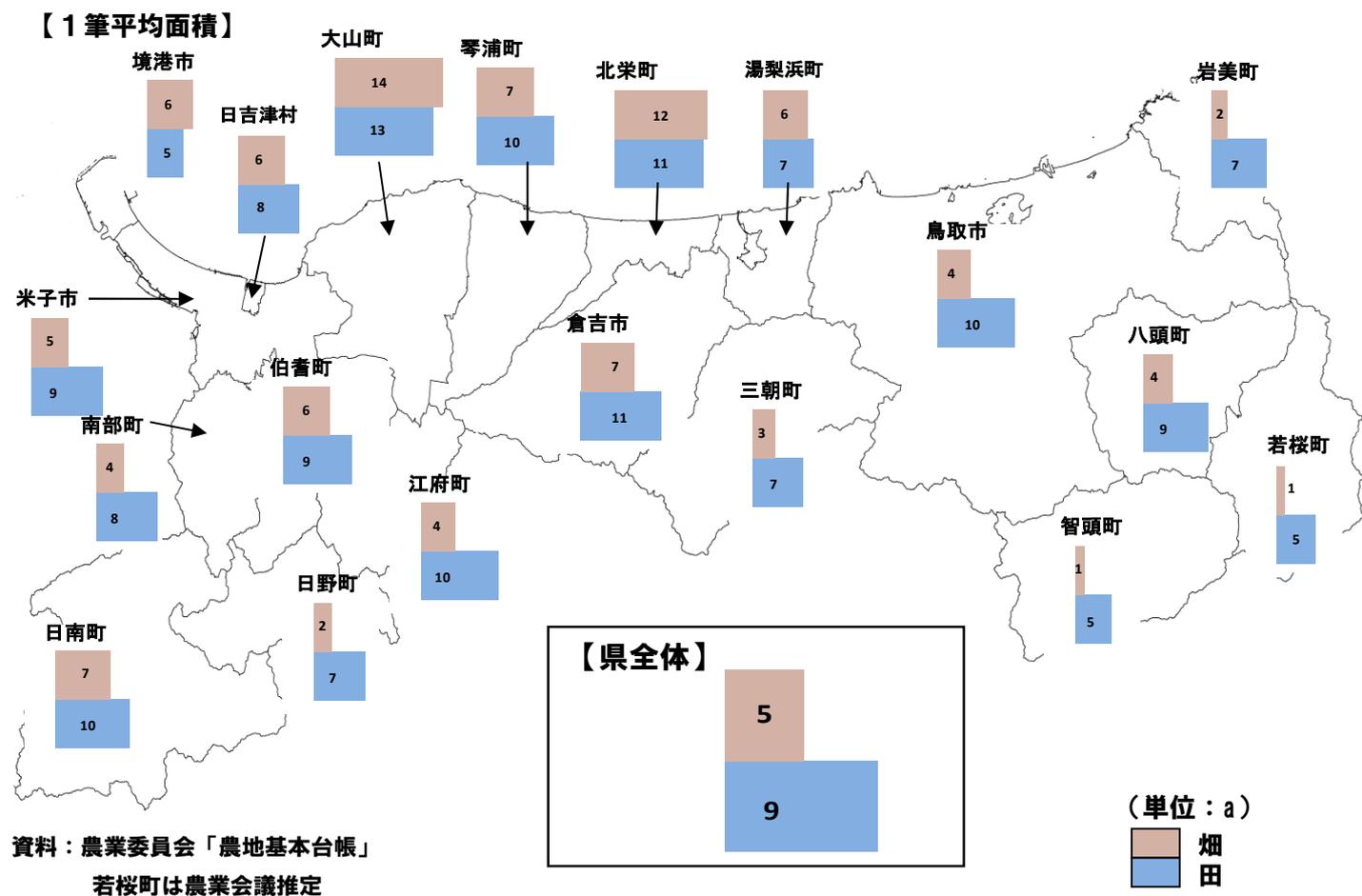
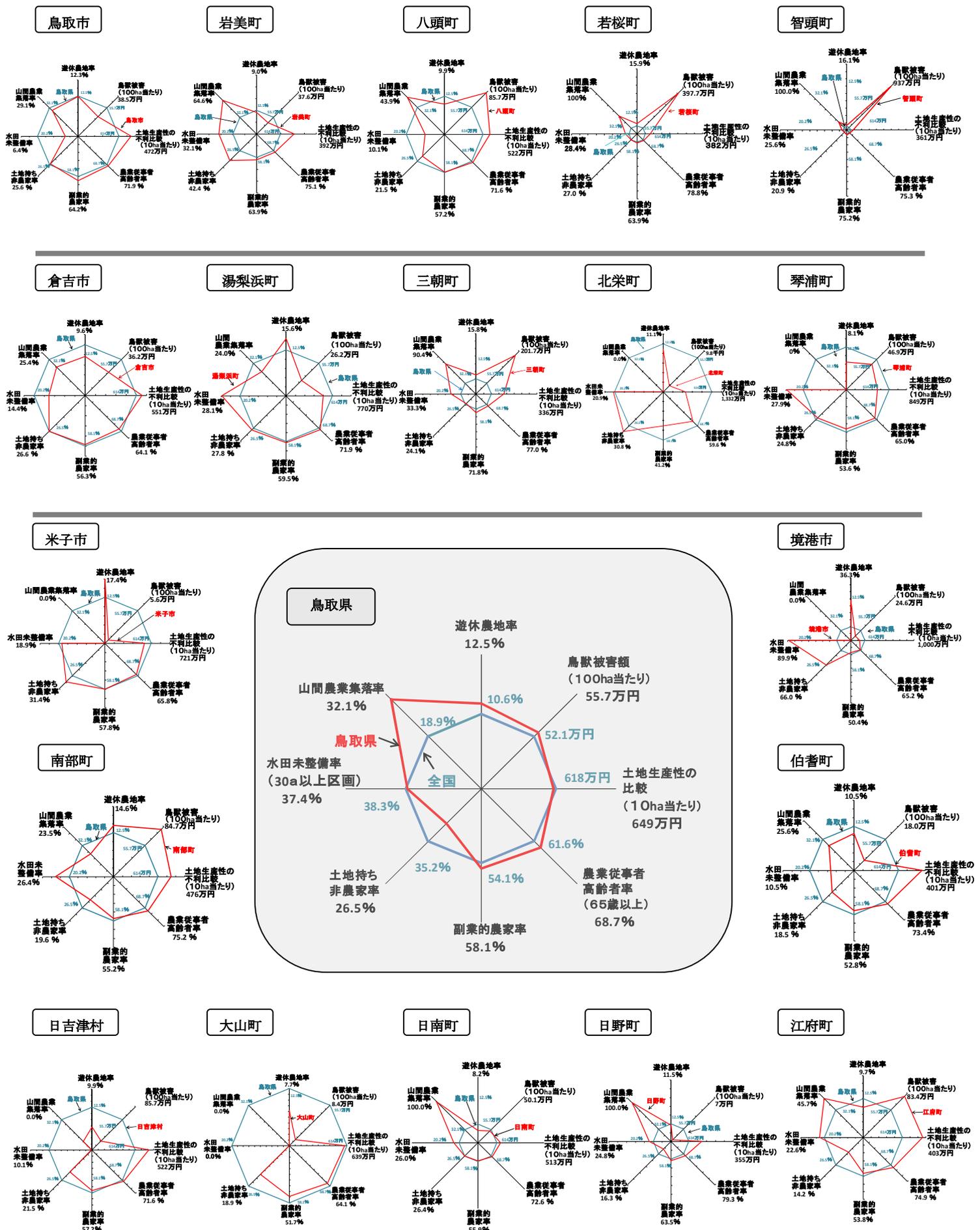


図4 遊休農地の要因分析 (平成24年度農地白書～総集編～より)

～要因の様相は、葉の形で言えばキリ、モミジ、イチヨウ、ヤナギなどさまざま～



とっとい農地「4色の土」

鳥取県は日本海と中国山脈に挟まれ、日本海からの風や火山活動などさまざまな自然要因を受け、土壌の種類は大きく4色に分けられる。

② 黒ボク土

大山黒ボク土は昔、大山が噴火した火山灰からできた土壌で、黒ボクの語源は「黒くてボコボコした土」から来ている。鳥取県では大山山ろくを中心とした西北部に多く分布している。明治32年陸軍軍馬補充部大山支隊が現大山町の地(約5,000ha)に設けられ、朝鮮に移転、廃止される大正11,12年まで本格的な開拓は出来なかったが、昭和に入って大山農場、神田農場、陣構農場などが入植した。第2次大戦後、国策として大山開拓建設事業(8,000ha、1,000戸)が推進、さらに、昭和47年から国営総合農地開発事業(大山山麓地区)が進められ、今日に至っている。黒ボク土は、腐植含量が極めて高く、すいかやブロッコリー、さといも、だいこん、果実などの栽培に適している。

① 砂丘土

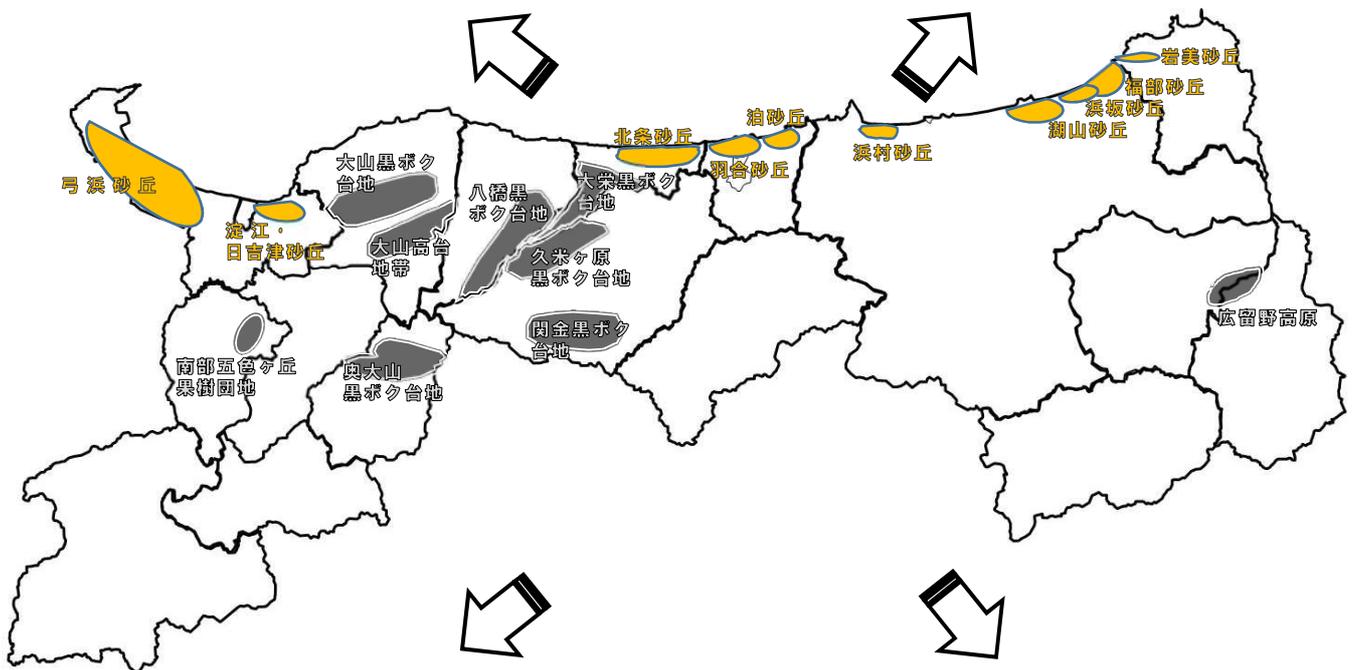
砂丘は、鳥取県三大河川の河口を中心に3つの砂丘が発達している。上流から流出した砂が、潮流・波浪・季節風によって次第に内陸に堆積してできたものである。

① 東部砂丘地帯は、高いところは標高80mに達し、起伏の変化が著しい。

② 中部砂丘地帯は、近くに風を妨げる山地が存在しないので、低平な砂浜となっている。

③ 西部砂丘地帯は、壮大なスケール砂州で地下水位が高く、井戸水が豊富である。

砂土は肥料分や水分を保持する能力が低く、「農業には不向き」と言われるが、短所を強みに活かして、らっきょうやながいも、白ねぎ、にんじん、さつまいも、ぶどうなど、多くの特産物を産出している。



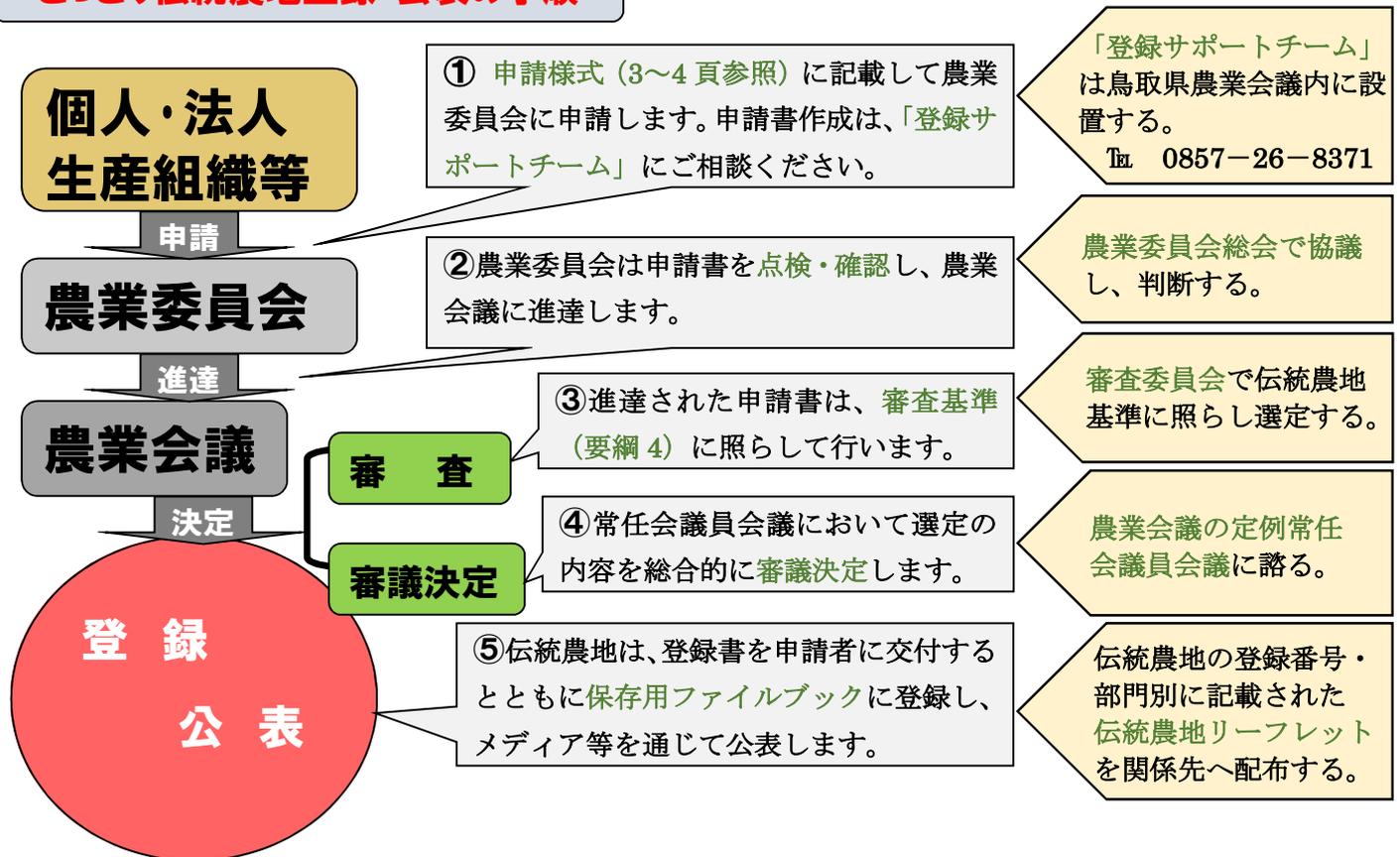
③ 褐色土

褐色森林土は、名前のおり褐色の土壌。その性質は、森林下にできる有機物の蓄積した表層と褐色の下層からなり、変化に富んでいる。当県の特産二十世紀梨を始めとする果樹は、主に褐色森林土と黒ボク土で栽培されている。

④ 灰色土

県下の広面積を占める水田土壌を形成。千代川、天神川、日野川の三大河川の多量の水を通じ、豊かな耕土と様々な有効成分を含み、主に稲作の生産安定に寄与している。昭和40年代からは米の転作によって、麦・大豆や野菜、飼料作物などが作付けられている。

とっとり伝統農地登録・公表の手順



2014年度 サポート執筆者・審査員

【登録申請サポート執筆者】

木村 吉春	J A鳥取西部 (元鳥取県西部総合事務所農林局副局長)
渡邊 悟	鳥取県農業会議法人化推進室長 (前倉吉農業改良普及所長)
田中 和浩	〃 次長
森井 春孝	〃 参与 (前鳥取県経営支援課主幹)
倉益 悦生	〃 事務局長
近藤 元	〃 前参与 (元鳥取県農業試験場長)
上田 弘美	〃 元事務局長 (元鳥取県園芸試験場長・鳥取県農業試験場長)
川上 一郎	〃 会長 (元米子農林振興局長・J A鳥取県中央会専務理事)

【登録審査】

第1次(中間)審査	平成26年3月20日
第2次(最終)審査	平成26年7月7日

【編集総括・監修】

編集総括	川上 一郎
監修	上田 弘美
〃	池田 辰雄 (元全国農業会議所情報事業本部長)

【審査員】

(敬称略)

委員長	三野 徹	鳥取環境大学理事・副学長
副委員長	松嶋 晃生	鳥取県土地改良事業団体連合会常務理事
	河本 昌樹	鳥取県農林水産部農業振興戦略監 生産振興課課長補佐
	外池 美代子	前東部消費生活モニター協議会会長
	坂東 悟	鳥取県農業試験場環境研究室室長
	増田 卓也	J A全農 鳥取県本部園芸部部长

【登録決定】 鳥取県農業会議常任会議員会議(平成26年7月18日)

とっとり伝統農地マップ ～「5部門「産」「景」「生」「健」「史」で構成～

産

【生産振興】

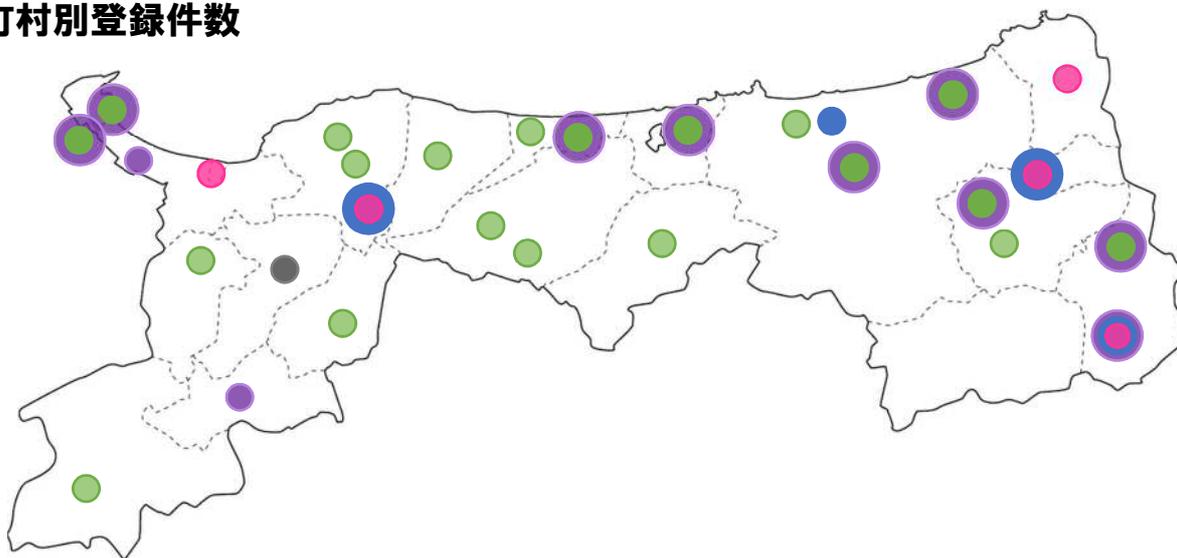
- ①土質等の特色を活かした特産物を産出している農地
- ②面的にまとまって伝存し、利活用が顕著な農地
- ③土地基盤の改良、技法又は用途が特異で意義の深い農地

景

【景観】

- ①豊かな自然に囲まれ景観的価値が極めて高い農地
- ②農地の形状や畦畔等が美しく、希少的価値の優れた農地
- ③都市農村交流や住民の安らぎの場として活用されている農地

市町村別登録件数



生

【生態系・環境保全】

- ①多様な生物や特色ある生物の生息等に適した環境が保たれている農地
- ②生態系を保全するための特色ある取り組みが行われている農地
- ③洪水防止、水源かん養など多面的機能が顕著である農地

健

【教育・福祉】

- ①地域住民の暮らしを支える公益的利用農地(学童農園、福祉農園等)
- ②地域住民等の参画による農地の保全活動が行われている農地

史

【歴史・文化】

- ①農地にまつわる伝説等があり、歴史的・文化的に意義が深く貴重な農地
- ②歴史的な価値を有する施設を備えている農地
- ③歴史的文化的価値の高い伝統行事が引き継がれている農地

発行 鳥取県農業会議 鳥取市東町1丁目271番地(鳥取県庁第2庁舎8階)
TEL (0857) 26-8371 E-mail 31kaigi@nca.or.jp